

解剖 脛骨後部にして、後脛骨筋、及び長總趾伸筋あり、後脛骨動脈循れり、淺在腓骨神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 脊髄炎、腹膜炎、痲疾、翠丸炎、腸雷鳴、水腫病、下肢麻痺、盜汗過多に効あり、其他腰部の痲痺、齶齒痛を治す。

(八) 交 信

位置 復溜穴の前五分にあり、復溜穴と併列す。

解剖 同前、

療法 鍼四分、灸三壯乃至七壯、

主治 痲疾、尿閉、便秘、或は腸加答兒、下腹偏痛、水腫病、又は内股

神經痛を治す、其他月經不調、子宮出血、子宮脱出、腔脱に効あり。

(九) 築 賓 (異名) 腦膈 臆肚

位置 復溜穴の直上にして腓腸筋の下垂部にあり。

解剖 比目魚筋と腓腸筋下垂部との境にして、後脛骨動脈循れり、同神

脛分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯乃至七壯、

主治 癲狂病、或は舌肥大、涎沫を治す、其他鉛毒症、又は小兒の胎毒、及び比目魚筋痲痺に奏効す。

(一〇) 陰 谷

位置 膝關窩内側、大筋と小筋との間にあり。

解剖 脛骨關節顆の内縁後部にして、半膜様筋の前、半腱様筋と縫匠様筋との後、薄股筋の起始部なり、膝關節動脈循れり、膝關神經、股神經、坐骨神經分佈す。

療法 鍼四分、灸三壯、

主治 大腿内側部の神經痛、又は膝關關節炎、或は下腹鼓脹、又は麻疾陰痿、陰莖痛、腔内炎、大陰唇炎、陰門瘙痒、子宮出血を治す。

(一一) 横

骨 (異名) 下極 屈骨

位置 盲俞穴の下五寸にして白條線の左右各五分にあり。

解剖 耻骨の上部にして直腹筋部なり、「プウバルト」氏靱帶の上部に當

る下腹動脈循れり、腸骨鼠蹊神經分佈す。

療法 灸五壯乃至十五壯、

注意 禁鍼、

主治 麻疾、膀胱麻痺、又は痙攣、腸神經痛を治す、其他失精、及び眼球充血、角膜炎に効あり。

(一二) 太

赫 (異名) 陰維 陽關

位置 盲俞穴の下四寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼八分乃至一寸、灸五壯乃至十壯、

主治 陰囊收縮、陰痿、陰莖痛、精液缺乏、遺精、早漏、又は虚勞に効

あり、其他眼球充血、及び角膜炎、或は慢性腔加答兒を治す。

(一三) 氣

穴 (異名) 胞門 子戸

位置 盲俞穴の下三寸にして同前、

解剖 耻骨の上方にして同前、

療法 鍼七分乃至一寸、灸五壯乃至十壯、

主治 腎臓炎、或は腰背痙攣、又は膀胱括約筋麻痺を治す、其他眼球充血、角膜炎、又は月経不順に効あり。

(一四) 四

滿 (異名) 髓府

位置 盲俞穴の下二寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼七分乃至一寸、灸五壯乃至十壯、

主治 腸加答兒、腸疝痛、角膜白翳に効あり、其他月経時に於ける、子宮神経痛、及び痙攣、或は月経不調、又は不妊症に奏効す。

(一五) 中 注

位置 盲俞穴の下一寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼七分乃至一寸、灸五壯乃至十五壯、

主治 下腹部の痙攣、便秘、腸加答兒、又は眼球充血、及び角膜炎に効あり、其他月経不順を治す。

(一六) 育 俞

位置 神闕穴の傍、左右各五分にあり。

解剖 臍の兩傍にして同前、

療法 鍼一寸、灸七壯、

主治 心臟炎、心外膜肥大、又は胃痙攣、常習便秘、胃部冷却症、腹膜神經痙攣、黄疸に効あり、其他眼球充血、角膜白翳を治す。

(一七) 商 曲 (異名) 高曲

位置 盲俞穴の上二寸にして白條線を去る事左右各五分にあり。

解剖 直腹筋の兩側にあり、横腹筋、内外斜腹筋あり、上腹壁動脈循

れり、肋間神經前穿行枝分佈す。

療法 鍼七分乃至一寸、灸七壯、

主治 胃痙攣、腹膜神經痙攣、又は食慾不進に効あり、其他黄疸、或は眼球充血、角膜炎を治す。

(一八) 石 關 (異名) 石闕

位置 盲俞穴の上三寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼七分乃至一寸、灸七壯、

主治 胃痙攣、吃逆、唾液分泌過多、便秘、痲疾、眼球充血に効あり、其他子宮充血、子宮神經痙攣を治す。

(一九) 陰

都 (異名) 食宮 通關

位置 盲俞穴の上四寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼七分乃至一寸、灸七壯乃至十壯、

主治 肺氣腫、胸膜不全症、喘息、腸雷鳴、又は黃疸に効あり、其他眼  
球充血、角膜白翳を治す。

(二〇) 通

穀 (異名) 通谷

位置 盲俞穴の上五寸にして同前、

解剖 上腹部にして、直腹筋内縁にあり、上腹壁動靜脈循環れり、肋間

神 社前穿行枝分佈す。

療法 同前、

主治 嘔吐、消化不良、胃擴張、慢性胃加答兒、急性舌骨筋麻痺を治す  
其他欠伸、又は笑筋痙縮、或は眼球充血に効あり。

(二一) 幽

門 (異名) 上門

位置 盲俞穴の上六寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼五分、灸七壯乃至十壯

主治 上腹部鼓脹、呑酸、涎沫、嘔吐、又は胸膜神經痙攣或は眼球充  
血に効あり、其他氣管支加答兒、又は妊娠、嘔吐に應用して奏効す。

(二二二) 歩廊

位置 第五肋骨の下にして正中線を去る事各二寸にあり。

解剖 第五第六肋間にして大胸筋あり肋間動脈、内乳動脈循れり、肋間

神経、及び前胸廓神経分佈す、内に肺を藏す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 胸脇神経痛、肋膜炎、氣管支加答兒、鼻孔閉塞、嗅能減退に効あり、其他嘔吐、不食、直腹筋痙攣、若くは乳癰を治す。

(二二三) 神封

位置 第四肋骨の下にして同前、

解剖 第四第五肋間にして同前、  
療法 鍼三分、灸五壯、  
主治 同前、

(二二四) 靈墟

位置 第三肋骨の下にして同前、

解剖 第三第四肋間にして同前、

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 同前、

(二二五) 神藏

位置 第二肋骨の下にして同前、

解剖 第二第三肋間にして同前、

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 肺充血、氣管支炎、胸膜神経痛、肋膜炎、咳逆、嘔吐、不食を治す。

(二六) 或 中

位置 第一肋骨の下にして同前、

解剖 第一第二肋間にして同前、

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 同上其他涎沫過多を治す。

(二七) 俞 府 (異名) 輸府

位置 鎖骨の下にして同前、

解剖 鎖骨と第一肋軟骨附着部との間にして鎖骨下筋、及び大胸筋あり

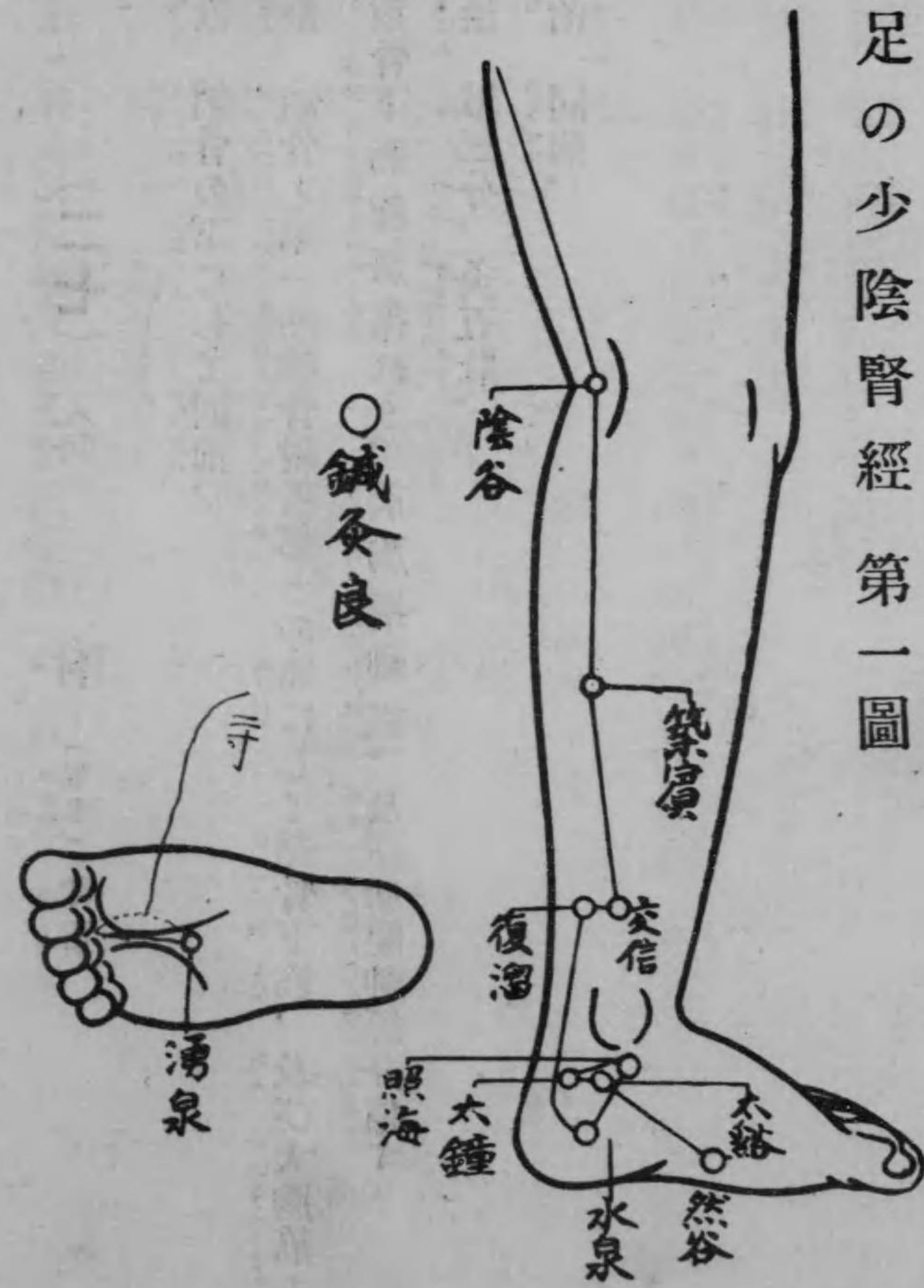
鎖骨下動靜脈循れり、前胸廓神経、及び肋間神経分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 同前、



足の少陰腎經 第一圖



足の少陰腎經 第二圖



禁城 ○鍼灸良



### 第九章 手の厥陰心包經 九穴 左右合せて十八穴

(一) 天 池 (異名) 天會

位置 乳中穴と天谿穴との中間にあり。

解剖 第四肋間にして、大胸筋、前大鋸筋あり、長胸動脈循れり、長

胸神經、及び前胸廓神經分佈す、内に肺を藏す、左は心臟部なり。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯、

主治 心臟外膜炎、或は腦充血、又は腋下腺炎を治す。

(二) 天 泉 (異名) 天溫

位置 腋下横紋の前端より、曲澤穴を的に下る事二寸にあり。

而して深部に動脈ありて手に應ず、臂を擧て之を取る。

解剖 上膊骨前内部にして、三頭膊筋部なり、上膊動脈循れり、腋下

神經、及び中膊皮下神經分佈す。

療法 鍼四分、灸三壯、

主治 心内膜炎、上腹部膨脹、吃逆、又は視力缺乏に効あり。

(三) 曲 澤

位置 肘窩横紋尺澤穴と少海穴との中間にあり。

解剖 上膊骨と前膊骨との關節部にして、長屈拇筋、及び深屈指筋あり

上膊動脈及び貴要靜脈循れり、橈骨神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯

主治 心臟炎、又は氣管支加答兒、臂肘神經痛に効あり、其他逆氣、嘔吐、又は惡疽を治す。

(四) 郄門

位置 腕後五寸にして前膊前面の正中にあり。

解剖 橈骨と尺骨との中間にして、長屈拇筋と淺屈指筋との間にあり、尺骨動脈の分枝循れり、正中神經分佈す。

療法 鍼四分、灸五壯

主治 胃出血、衄血、咳逆、其他併私的里症に効あり。

(五) 間使 (異名) 鬼路

位置 腕後三寸にして同前

解剖 同前

療法 鍼三分、灸五壯

主治 心臟炎、咽喉加答兒、胃加答兒、又は中風、或は憂鬱症に効あり  
其他月經不調、子宮充血、又は小兒の搐搦、及び夜啼を治す。

(六) 內關

位置 腕後二寸にして同前

解剖 同前

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 心臟炎、心外膜炎、又は黃疸を治す、其他眼球充血、肘臂神經痛、又は産後血暈に効あり。

(七) 太

陵

(異名) 心主 鬼心

位置 腕關節部にして横紋の中央にあり。

解剖 橈骨と尺骨との中間にして、廻前方筋の下縁にあり、横腕靱帯を有す、尺骨動脈の分枝及び貴要靜脈循れり、正中神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯乃至七壯、

主治 心臟炎、心外膜炎、胸脇神經痛、腋下腺炎、尿色赤黄、扁桃腺炎、頭痛發熱、疥癬を治す、其他急性胃加答兒又は胃出血に効あり。

(八) 勞

宮

(異名) 五里 掌中 鬼路

位置 手掌にして中指を屈し指頭の當る所にあり。

解剖 第二掌骨と第三掌骨との間にして、手掌腱膜中にあり、手掌動脈循れり、尺骨神經分佈す。

療法 鍼二分乃至三分、

注意 禁灸、

主治 中風にて能く笑ひ能く悲しむに効あり、其他口瘡にて口中惡臭あるを治す、或は黃疸、衄血、小兒の齕爛に奏効す。

(九) 中 衝

位置 中指外側爪甲の角去る事一分にあり。

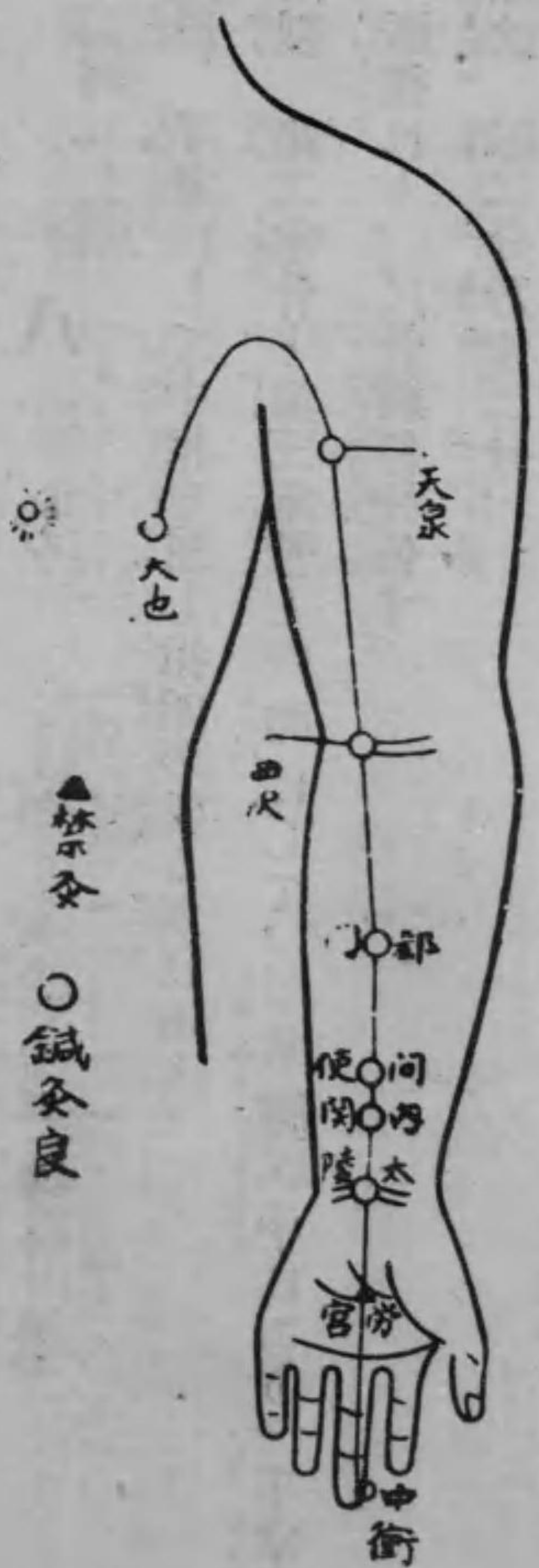
解剖 第三指骨第三節の外側爪甲の發生根部にして、總指伸筋腱の附着

部なり、指掌動脈循れり、正中神經の指掌枝分佈す。

療法 鍼一分、灸三壯、

主治 心臟炎、心内外膜炎、小兒夜啼を治す。

手の厥陰心包經



第十章 手の少陽三焦經 二十三穴 左右合せて四十六穴

(一) 關衝

位置 環指内側爪甲の角去る事一分にあり。

解剖 第四指骨第三節の内側爪甲の發生根部にして、總指伸筋の附着部なり、固有小指筋を有す、指掌動脈循れり、正中神經の指掌枝分佈す。

療法 鍼一分、灸三壯、

主治 乾嘔、頭痛、不食、臂肘神經痛、角膜白翳等に効あり。

(二) 液門

位置 環指内側第一節の前にあり。

解剖 第四指骨第一節の前内部にして、總指伸筋腱部なり、第四骨間背動脈循れり、尺骨神經分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯、

主治 癲狂病、頭痛、耳聾、齒齲炎、角膜白翳、肘臂部の痙攣に効あり

(三) 中渚

位置 小指と環指との間、第一節の後にあり、掌を握つて之を取る。

解剖 第四掌骨と第五掌骨との間、前下方にして同前、

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯、

主治 眩暈、頭痛、耳聾、咽喉腫痛、角膜白翳に効あり、其他臂肘神經痛、或は關節炎にて手の五指屈伸不能を治す。

(四) 陽池 (異名) 別陽

位置 第四掌骨の上端にあり。

解剖 尺骨と腕骨との關節部にして、總指伸筋を有す、腕骨背網動脈循れり、後下膊皮下神經及び尺骨神經の分枝分佈す。

療法 鍼三分、

注意 禁灸、

主治 間歇熱、或は糖尿病、又は上肢關節炎に効あり。

(五) 外關

位置 腕後二寸にして陽池穴の直上にあり。

解剖 橈骨と尺骨との間にして、長屈拇筋と短屈指筋との間にあり、骨間動脈循れり、後下膊皮下神経、及び正中神経分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯乃至七壯。

主治 聽覺脱失、又は臂肘神経痛、及び上肢關節炎に効あり。

(六) 支溝

(異名) 飛虎

位置 腕後三寸外關穴の上一寸にあり。

解剖 同前。

療法 鍼五分、灸五壯。

主治 局發痙攣、又は肋膜炎にて惡寒するに發汗の効あり、其他上膊神經痛、急性舌骨筋麻痺、嘔吐、常習便秘或は産後血暈を治す。

(七) 會宗

位置 支溝穴より橈骨側に行く事一寸にあり。

解剖 尺骨筋と固有小指伸筋との間にして、總指伸筋を有す、骨間動脈循れり、橈骨神經の分枝、及び後下膊皮下神経分佈す。

療法 灸五壯乃至七壯。

注意 禁鍼。

主治 舞蹈病に効あり、其他聽覺器麻痺、又は皮膚の疼痛を治す。

(八) 三陽絡 (異名) 通間

位置 腕後四寸尺骨莖狀突起の直上にあり。

解剖 橈骨と尺骨との間にして、長屈拇筋と短屈指筋との間にあり、骨

間動脈循れり、橈骨神経の後枝後下膊皮下神経分佈す。

療法 灸七壯、

注意 禁鍼、

主治 耳聾、或は下齒神經痛、及び寄生蟲に効あり。

(九) 四瀆

位置 腕後五寸同前、

解剖 同前、

療法 鍼六分、灸三壯乃至七壯、

主治 同前其他咽喉加答兒、腎臟炎、前膊痙攣、及び麻痺に効あり。

(一〇) 天井

位置 尺骨鷹嘴突起の上一寸にあり、肘を屈して之を取る。

解剖 上膊の後面にして、鷹嘴突起の上方、三頭膊筋腱の内縁にあり、

肋關節動靜脈網循れり、内膊皮下神経、尺骨神経分佈す。

療法 鍼三分乃至五分、灸三壯乃至五壯、

主治 氣管支炎、又は咽喉加答兒を治す、其他癩、狂病、憂鬱症、耳聾、不食、或は眼瞼縁炎、頸項神經痛、腰椎神經痛に奏効す。

(一一) 清冷淵

位置 肘上二寸天井穴の上一寸にあり、肘を伸べ臂を擧て之を取る。

解剖 上膊の後側にして、鶯嘴突起の尖端上方、三頭膊筋内縁にあり、

下尺側副動靜脈循れり、内膊皮下神經、尺骨神經分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 肩胛部乃至前膊部の痙攣、若くは麻痺に効あり。

(一二) 消灑

位置 上膊の後面三角筋停止部の下約一寸にして重く壓せば起肉する所なり。

解剖 上膊骨結節の後下方、螺旋狀溝部にして、三頭膊筋あり、橈骨動

靜脈、中頭靜脈循れり、後膊皮下神經、橈骨神經分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯乃至七壯、

主治 頭痛、又は頸項部の組織炎、及び痙攣、若くは麻痺、或は肩胛部の諸筋痙攣に効あり、其他癩癧又は關節癱瘓質斯に奏効す。

(一三) 臑會 (異名) 臑胸 臑交

位置 肩髃穴より天井穴を的に下る事三寸にあり。

解剖 三角筋末端にして、三頭膊筋部なり、後廻旋上膊動脈、及び中

頭靜脈循れり、腋窩神經、橈骨神經分佈す。

療法 鍼五分乃至七分、灸五壯乃至十五壯、



主治 前膊諸筋痙攣、又は神經麻痺、或は肩胛部の痲衝に効あり、其他頸項部の血瘤、及び脂肪瘤を治す。

(一四) 肩 膠

位置 肩髃穴と肩貞穴との中央にあり。

解剖 肩峯突起と上膊骨及び鎖骨との關節部なり、前廻前上膊動脈、及び腋下靜脈枝循れり、鎖骨上神經、及び肩胛上神經分佈す。

療法 鍼七分、灸五壯乃至七壯、

主治 肩胛部及び上肢神經痙攣を治す。

(一五) 天 膠

位置 曲垣穴を前に行く事約一寸にあり。

解剖 肩胛骨の上部にして、僧帽筋、及び棘上筋を有す、横肩胛動脈循れり、肩胛上神經、及び副神經分佈す。

療法 鍼五分、灸五壯乃至七壯、

主治 頸項部の神經痙攣、又は頸項部の惡寒するに効あり。

(一六) 天 牖 (異名) 天聽

位置 天柱穴と天容穴との中間にして乳嘴突起の後下部にあり。

解剖 乳嘴突起の後下部にして、項筋の筋腹にあり、後頭動脈の分枝循れり、小後頭神經、及び頸椎神經の上枝分佈す。

療法 鍼五分、

注意 禁灸、

主治 頸項部痙攣して、回顧不能、又は咽喉加答兒、耳鳴、耳聾、眼球充血に効あり、其他顔面浮腫、又は鬼夢を治す。

(一七) 翳 風

位置 耳翼根の後下部凹陷中にあり。

解剖 耳下腺部の微上にして、耳翼根の後下部なり、顳顬動脈循れり、大耳神経、及び顳顬神経の小枝分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 耳鳴、耳聾、顔面神経麻痺、頰頰炎、笑筋痙縮等に効あり。

(一八) 瘰 脈

(異名) 資脈

位置 耳翼の後部にして、乳嘴突起の中央骨陷中にあり。

解剖 顳顬骨部にして顳顬筋あり、耳後筋起始部なり、耳後動脈循れり、顳顬神経分佈す。

療法 鍼一分、灸三壯、

主治 頭痛、耳鳴、瞳孔不全症、下痢、又は小兒の搐搦、嘔吐を治す。

(一九) 顳 息

(異名) 顳顬

位置 耳翼根の上後部にして、角孫穴の後下部、骨陷中にあり。  
解剖 同前、

療法 灸三壯乃至七壯、

注意 禁鍼、

主治 耳鳴、頭痛、喘息、癩癩、又は小兒の嘔吐を治す。

(二一〇) 角 孫

位置 耳角の當る處の骨陷中にして、口を開けば空現る中にあり。

解剖 顳顬骨部にして、耳翼上角の上際顳顬筋中にあり、顳顬動脈及び

耳前動脈循れり、顳顬神経分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 角膜白翳、又は齒齦炎、唇吻強硬、口内炎、其他突き目等に効あり。

(二一一) 耳 門

位置 耳前小辨の中央缺けたる中にあり。

解剖 耳前小辨の中央にして、顳顬動脈循れり、顳顬神経分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 耳鳴、耳聾、耳瘡、耳聾、耳聾、耳道加答兒に効あり、其他上齒神經痛又は唇吻強硬を治す。

(二一二) 和 膠

位置 耳門穴の前上、銳髪の後動脈手に應ずるにあり。

解剖 顳顬骨下端と顳骨との關節部にして、耳前筋の起始部なり、淺顳

顳動脈循れり、顔面神経の顳額枝分佈す。

療法 鍼三分乃至七分、灸三壯乃至五壯、

主治 頭痛、又は顔面神経痙攣、及び麻痺、或は頸領部組織炎に効あり  
其他鼻加答兒又は鼻茸を治す。

(二三三) 絲竹空 (異名) 巨窞 目窞

位置 眉弓の外端眉毛に入る事約一分動脈陷中にあり。

解剖 前頭骨眉弓突起部にして、前頭筋及び眼輪匠筋を有す、顳額動脈の前枝循れり、顔面神経の顳額枝分佈す。

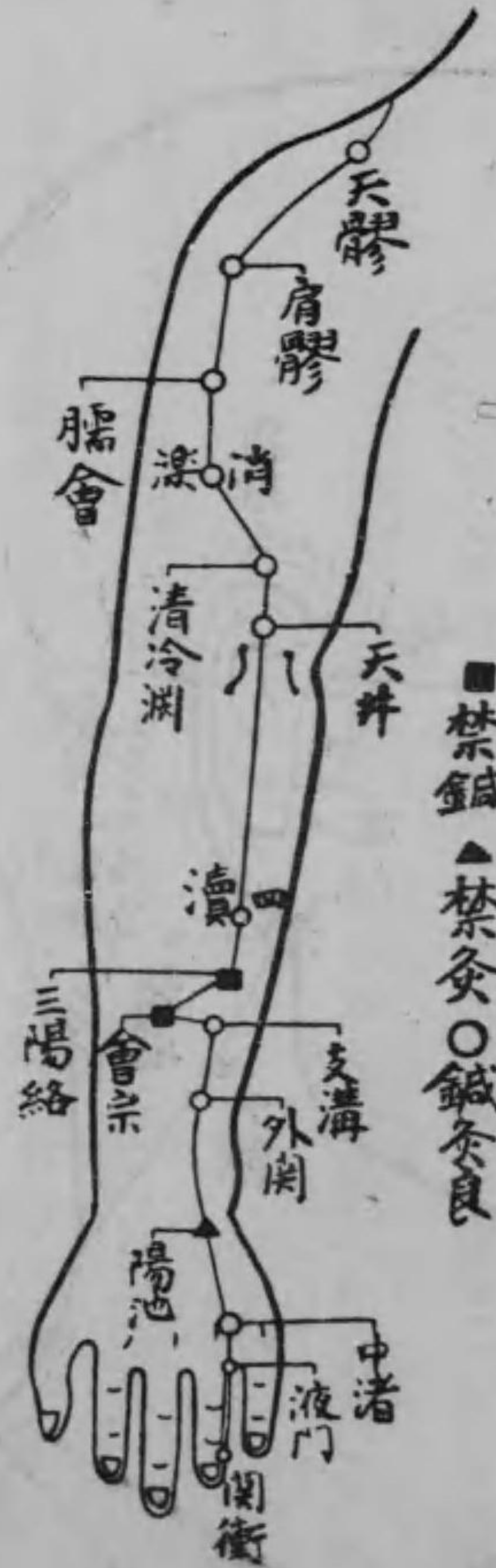
療法 鍼三分、

注意 禁灸、

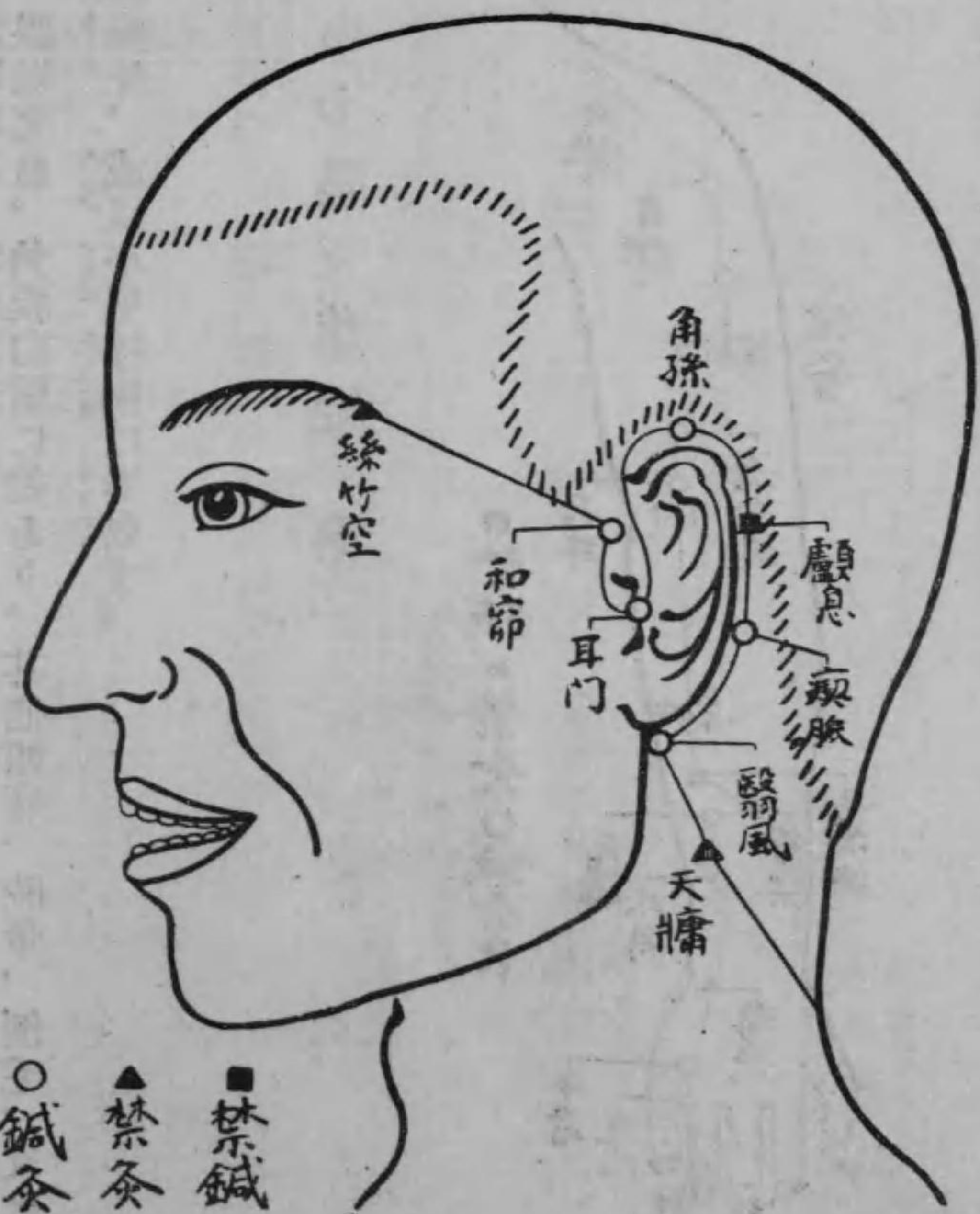
主治 眼球充血、角膜白翳に効あり、其他頭痛、眩暈、倒毛、又は顔面神経麻痺、或は小兒搐搦に奏効す。

手の少陽三焦經 第一

■禁鍼 ▲禁灸 ○鍼灸良



圖二第 經焦三陽少の手



○ 鍼灸良  
 ▲ 禁灸  
 ■ 禁鍼

第十一章 足の少陽膽經 四十三穴 左右合せて八十六穴

(一) 瞳子膠 (異名) 太陽 前關 後曲

位置 外眥を去る事五分動脈陷中にあり。

解剖 前頭骨の顴骨突起と顴骨前頭突起との關節部の後際にして、眼輪匠筋を有す、顴骨眼窩動脈循れり、顔面神経の顴骨枝、及び同顴顳枝分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯乃至五壯。

主治 角膜白翳、網膜炎、眼球充血、瘡痒、涙液過多等に効あり。

(二) 聽會 (異名) 所阿 聽阿 後關

位置 耳前小辨の前下部にして、口を開けば孔ある中にある。

解剖 下顎骨顆狀突起の微下顳顬骨との間にあり、耳前動脈及び内頸動脈循れり、顔面神経の上枝分佈す。

療法 鍼五分、灸五壯。

主治 耳道加答兒、耳鳴、耳聾、顔面神経麻痺、下顎脱臼、等に効あり。

(三) 客主人 (異名) 上關 客主 容主 太陽

位置 耳前顆骨橋の上端にして、動脈手に應ずるにあり。

解剖 顳顬骨と顆骨及び蝴蝶骨との三關節部にして、顆骨弓中央部の直

上に當れり、内頸動脈循れり、顔面神経の顳顬枝分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯。

主治 偏頭痛、又は眩暈、耳鳴、耳聾、口眼喎斜、中風に効あり、其他縁障眼「青盲」齒神經痛、及び口角諸筋の痙攣を治す。

(四) 頷厭

位置 額角髮際後部にして、俗に云ふ米嚼みの微上にあり。

解剖 前頭骨と顳頂骨との縫合部にして、顳顬筋中にある、淺顳顬動脈循れり、顔面神経の顳顬枝分佈す。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 頭痛、眩暈、耳鳴、或は上肢關節炎、又は小兒の搐搦を治す。

(五) 懸 顛

位置 頤厭穴の直下にして、俗に云ふ米嚙みの正中なり。  
解剖 同前。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 脳神経痛、顔面充血又は偏頭痛にて外眥に攣痛するに効あり、其  
他齒神経痛を治す。

(六) 懸 釐

位置 懸顛穴の直下にして米嚙みの下縁にあり。  
解剖 前頭骨と顛頂骨との縫合下部にして同前。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 顔面充血、頭痛、心内膜炎、慢性胃炎に効あり、其他眼球充血、  
又は間歇熱に發汗の効あり。

(七) 曲 鬢

位置 上耳翼根の微前にして口を開けば空ある中にあり。  
解剖 顛顛骨と顛頂骨との關節部にして同前。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯。

主治 「アルコール」中毒より來る顛頂部、頸部、及び顛顛部の神経痛又  
は頤頰神経痛に奏効す。

(八) 率谷

位置 耳上髮際の上一寸五分より前に行く事三分にあり。

解剖 顱頂骨の下端顱顱筋の前端にして、耳上聾筋を有す、耳後動脈循

れり、顔面神経の顱顱枝分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯。

主治 同前。

(九) 天衝

位置 耳上髮際の上二寸より後へ行く事六分にあり。

解剖 上耳翼根の後上部にして、乳嘴突起の直上、蝴蝶骨乳様縫合の

前際なり、其他同前。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯。

主治 癩癧又は頭痛、齒齦炎或は強直痙攣を治す。

(一〇) 浮白

位置 天衝穴の下一寸にあり。

解剖 乳嘴突起根の後際にして同前。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯。

主治 耳鳴、耳聾、齒神經痛、咳逆、呼吸困難に効あり、其他四肢神經麻痺、或は頸項部の組織炎、及び痙攣又は扁桃腺炎を治す。



(一一) 竅

陰

(異名) 首竅陰 枕骨

位置 浮白穴と完骨穴との中央、後頭結節の前上部にして、動脈手に應ずるにあり。

解剖 乳嘴突起の後上部にして、顛顛骨と顛頂骨と後頭骨との三縫合部なり、耳後鞏筋あり、耳後動脈循れり、耳後神経分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯。

主治 腦膜炎、腦充血、又は三叉神経痛、或は四肢の痙攣に効あり、其他咳逆、耳鳴、耳聾及び癰疽等の悪しき腫物を治す。

(一二)

完

骨

位置 耳後乳嘴突起の直下陷中にあり。

解剖 乳嘴突起の下端、胸鎖乳嘴筋附着部の上際にあリ、耳後動脈循れり、耳後神経分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯乃至七壯、

主治 顔面浮腫、口裂筋痙縮、言語不正、齒齦炎、又は中風を治す。

(一三)

本

神

位置 絲竹空穴の直上にして髮際に入る事四分にあり。

解剖 前頭骨部にして、前頭筋あり、顛顛動脈の前枝及び上眼窩動脈循れり、三叉神経の分枝分佈す。

療法 鍼三分、灸七壯、

主治 癩癩又は腦充血、眩暈、或は頸項部の痙攣に効あり。

(一四) 陽白

位置 眉上約五分瞳子の通りにあり。

解剖 前頭骨部にして前頭筋あり、上眼窩動脈循れり、上眼窩神経分

佈す。

療法 鍼二分、灸三壯、

主治 瞳子癢痛、夜盲に効あり、其他三叉神経痛を治す。

(一五) 臨泣

位置 前額髮際を入る事五分にして陽白穴の直上にあり。

解剖 同前、而して顔面神経の顳額枝分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯乃至十壯。

主治 角膜白翳、涙液過多、外眥充血に効あり、其他癩疾、蓄膿症、腦

溢血、「卒中風」を治す。

(一六) 目窓 (異名) 至榮

位置 臨泣穴の後一寸にあり。

解剖 前頭骨部にして、帽状腱膜中にあり、淺顳額動脈の分枝循れり、

上眼窩神経分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 眼球充血、眩暈、視力缺乏を治す、其他顔面浮腫、頭痛、蓄膿症、

悪寒發熱汗出でざるに効あり。

(一七) 正 營

位置 目窓穴の後一寸にあり。

解剖 顛頂骨部にして同前。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 眩暈、頭痛及び齒神經痛に効あり。

(一八) 承 靈

位置 正營穴の後一寸五分にあり。

解剖 顛頂骨結節後上部にして、帽狀腱膜あり、淺頰動脈の分枝循れ

り、大後頭神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 衄血、喘息、其他頭痛、發熱惡寒に効あり。

(一九) 腦 空 (異名) 顛顛

位置 承靈穴の後一寸五分にあり。

解剖 後頭結節の後側、後頭筋部にして、帽狀腱膜あり、後頭動靜脈

循れり、大後頭神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 肺結核又は僧帽筋痙攣に効あり、其他頸項部痙攣、或は心悸亢進の症に應用して奇効を奏す。

(110) 風池

位置 腦空穴の直下後頭骨の下部凹陷中にあり。

解剖 後頭骨下部にして夾板筋あり、胸鎖乳嘴筋と僧帽筋との附着部の

中間にして、後頭動靜脈循れり、及び頸椎神經の後枝、小後頭神經

分佈す。

療法 鍼四分、灸七壯乃至十壯、

主治 間歇熱又は頭痛、眩暈、衄血、欠伸、涙液過多、眼球充血、視力

缺乏或は頸項部諸筋痙攣又は咽喉加答兒に効あり、其他半身不隨「中

風」腦神經衰弱又は迷走神經痛、副神經麻痺を治す。

(111) 肩井

位置 缺盆穴の上、即ち鎖骨と臑髀棘との中間にあり。

解剖 肩胛舉筋と棘上筋との間にあり、僧帽筋あり、横肩胛動脈循れ

り、肩胛上神經及び副神經分佈す。

療法 鍼四分乃至六分、灸七壯乃至十五壯

主治 腰神經痛、或は頸項部痙攣痛、前膊疼痛又は衝心性脚氣、半身不

隨、「中風」腦神經衰弱に効あり、其他産後の子宮出血又は血暈或は早

産後の下肢冷却症を治す。

(112) 淵腋

(異名) 腋門

位置 極泉穴の下三寸肋間にあり、乳と併列す、臂を擧て之を取る。

解剖 側胸部第四肋間にして、前大鋸筋及び肋間筋あり、肋間動脈循れ

り、肋間神経の側穿行枝分佈す。内に肺を藏す。

療法 鍼四分、

注意 禁灸、

主治 肋膜炎又は肋間神経痛及び痙攣、或は惡寒發熱を治す。

(二二三) 輓筋

位置 淵腋穴を前に行く事一寸肋間にあり。

解剖 第四肋間にして同前、

療法 鍼五分、灸五壯、

主治 嘔吐、呑酸又は神経衰弱、唾液過多、言語不正に効あり、其他下

腹部痙攣或は四肢の痙攣を治す。

(二二四) 日月 (異名) 膽募 神光

位置 期門穴の直下五分にあり、第九肋前端的下部なり。

解剖 上腹部にして、直腹筋の外側にあり、長胸動脈循れり、長胸

神経の末端分佈す。

療法 鍼五分、灸五壯乃至七壯、

主治 腎臓炎又は併私的里性悲觀胃擴張等に効あり。

(二二五) 京門 (異名) 氣府 氣俞 腎募

位置 第十二肋軟骨尖端部にあり、上足を屈し下足を伸べ臂を舉げて之を取る。

解剖 第十二肋軟骨の前端にして、外斜腹筋及び潤背筋あり、上腹動脈循れり、長胸神経及び肋間神経筋枝分佈す。

療法 鍼七分、灸七壯乃至二十壯、腎臓炎又は腸神経痛、腸雷鳴、肩胛神経痛に効あり

(二二六) 帶脈

位置 章門穴の直下一寸にあり。

解剖 同前但し大腸の上行結腸部なり。

療法 鍼八分、灸五壯乃至十五壯、

主治 月經不調及び子宮痙攣又は子宮内膜炎に効あり。

(二二七) 五樞

位置 章門穴の下四寸にあり。

解剖 腸骨前上棘の前上部にして、内外斜腹筋あり、廻旋腸骨動脈循れり、神経同前、

療法 鍼七分、灸三壯乃至十壯、

主治 肩胛部及び背部、腰部神経痛、睪丸炎又は子宮神経痙攣或は子宮内膜炎を治す。

(二二八) 維道 (異名) 外樞

位置 章門穴の下四寸五分にあり。

解剖 同前、

療法 鍼八分、灸五壯乃至七壯、

主治 盲腸炎、或は嘔吐、不食又は水腫病に効あり。

(二九) 居

膠

位置 維道穴の下斜めに内方に行く事三寸にあり。

解剖 腸骨截痕の前部にして、大腸部なり、其他同前。

療法 鍼八分、灸五壯乃至七壯、

主治 腰部及び下腹部の痙攣又は盲腸炎に効あり、其他肩胛部、胸部及

び上肢神経痙攣を治す。

(三〇) 環

跳

位置 大腿關節外側横紋の頭にあり、側伏し上足を屈して之を取る。

解剖 大腿關節の外側にして、張股筋、中臀筋あり、上臀動脈循環れり

薦骨神経の後枝分佈す。

療法 鍼一寸、灸七壯乃至二十壯、

主治 半身不随、中風、或は腰部、大腿部及び膝部の組織炎、又は神経

痙攣に効あり。

(三一) 中

瀆

位置 膝關節横紋の頭より環跳穴を的に上る事五寸、大腿部後外側にあり。

解剖 大腿の外側にして、股鞘と外大腿筋との間にあり、外廻旋股動

脈循れり、外股皮下神経、上脛神経分佈す。

療法 鍼五分、灸五壯壯至七壯、

主治 下肢の麻痺又は神経痙攣或は脚氣病に奏効す。

(三三二) 陽

關 (異名) 關陵 關陽

位置 陽陵泉穴の上三寸にして、大腿骨外上顆の直上陷中にあり。

解剖 二頭股筋の後、半膜様筋の前にして、外大腿筋あり、外關節動

脈循れり、股神経の分枝分佈す。

療法 鍼五分、

注意 禁灸、

主治 膝關節炎、又は大腿部麻痺に効あり。

(三三三) 陽 陵 泉

位置 膝下胫骨小頭の微前下部にあり。

解剖 腓骨小頭の前下部にして、長腓骨筋と長總指伸筋との間にあり、

前脛骨動靜脈循れり、腓骨神経の分枝分佈す。

療法 鍼六分、灸七壯乃至十壯、

主治 膝關節炎、半身不隨、中風、又は顔面浮腫、常習便秘、脚氣、下

肢の痙攣に効あり、其他舞踏病を治す。

(三四) 陽

交 (異名) 別陽 足竅



位置 陽陵泉穴の下、三寸にあり。

解剖 腓骨部にして長總趾伸筋及び長腓骨筋を有す、前腓骨動脈の分枝

循れり、腓骨神経の分枝分佈す。

療法 鍼六分、灸三壯乃至十壯、

主治 喘息、肋膜炎、併私的里症又は顔面浮腫等に効あり。

(三五) 外丘

位置 陽交穴の前に行く事五分にあり、陽交穴と相並ぶ。

解剖 腓骨前段と短腓骨筋との間、長總趾伸筋隆起部なり、前脛骨動脈

循れり、淺腓骨神経分佈す。

療法 鍼四分、灸三壯、

主治 胸膜炎、頸項神経痛、惡寒發熱に効あり、其他狂犬病又は小兒の

狗瘻病「龜胸」及び癩癩を治す。

(三六) 光明

位置 外踝の上五寸、陽交穴の直下にあり。

解剖 長總趾伸筋と長腓骨筋との間にして後部に比目魚筋及び腓腸筋あ

り、動脈神経同前、

療法 鍼六分、灸七壯、

主治 脛腓部の神経痛、急性狂疾を治す。

(三七) 陽輔 (異名) 秀肉 絶骨

位置 外踝の上四寸より前に行く事三分にあり。

解剖 腓骨と脛骨との間にして、長總趾伸筋を有す、前腓骨動脈循れり

深腓骨神經分佈す。

療法 鍼六分、灸五壯乃至十五壯、

主治 腰神經痛又は膝關節炎、全身神經痛或は腰椎部冷却症に効あり

其他 銳眇疼痛、扁桃腺炎、腋下腺炎及び瘰癧に奏効す。

(三八) 懸 鐘 (異名) 絶骨

位置 外踝の上三寸、陽輔穴の後下にして動脈手に應ずるにあり。

解剖 長總趾伸筋と長腓骨筋との中央にして、外踝の上にあリ、前腓骨

動脈循れり、淺腓骨神經分佈す。

療法 鍼六分、灸五壯乃至十五壯、

主治 胸膜炎、胃擴張、脚氣、扁桃腺炎或は腎臟炎、衄血、鼻孔乾燥

に効あり、其他頸項部神經痛、下腿神經痛、中風等に奏効す。

(三九) 丘 墟

位置 外踝の直下より前へ行く事一寸陷中にあり。

解剖 脛腓關節下端と跗骨との關節部にして、長總趾伸筋腱中にあり、

前外 踝動脈 及び淺在腓骨神經分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯乃至七壯、

主治 肺充血、肋膜炎、呼吸困難、神經性腸疝痛に効あり、其他腋下腫

痛、又は角膜白翳及び腓腸筋攣縮を治す。

(四〇) 臨泣

位置 第四第五跗骨接際部の前にあり。

解剖 第四跗骨後外側と、第五跗骨後内側との間にして、第二腓骨筋の前端部なり、第四脛骨動脈循れり、脛骨神経交通枝分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 間歇熱又は全身麻痺及び疼痛或は心内膜炎、眩暈、呼吸困難を治す、其他月經不順又は乳房炎に効あり。

(四一) 地五會

位置 第四趾と第五趾との間、第一節の後中央陷中にあり。

解剖 第四及び第五跗骨間腔の中央前端部にして同前。

療法 鍼二分、

注意 禁灸、

主治 腋下神経痛、唾血又は乳房炎に効あり。

(四二) 夾谿

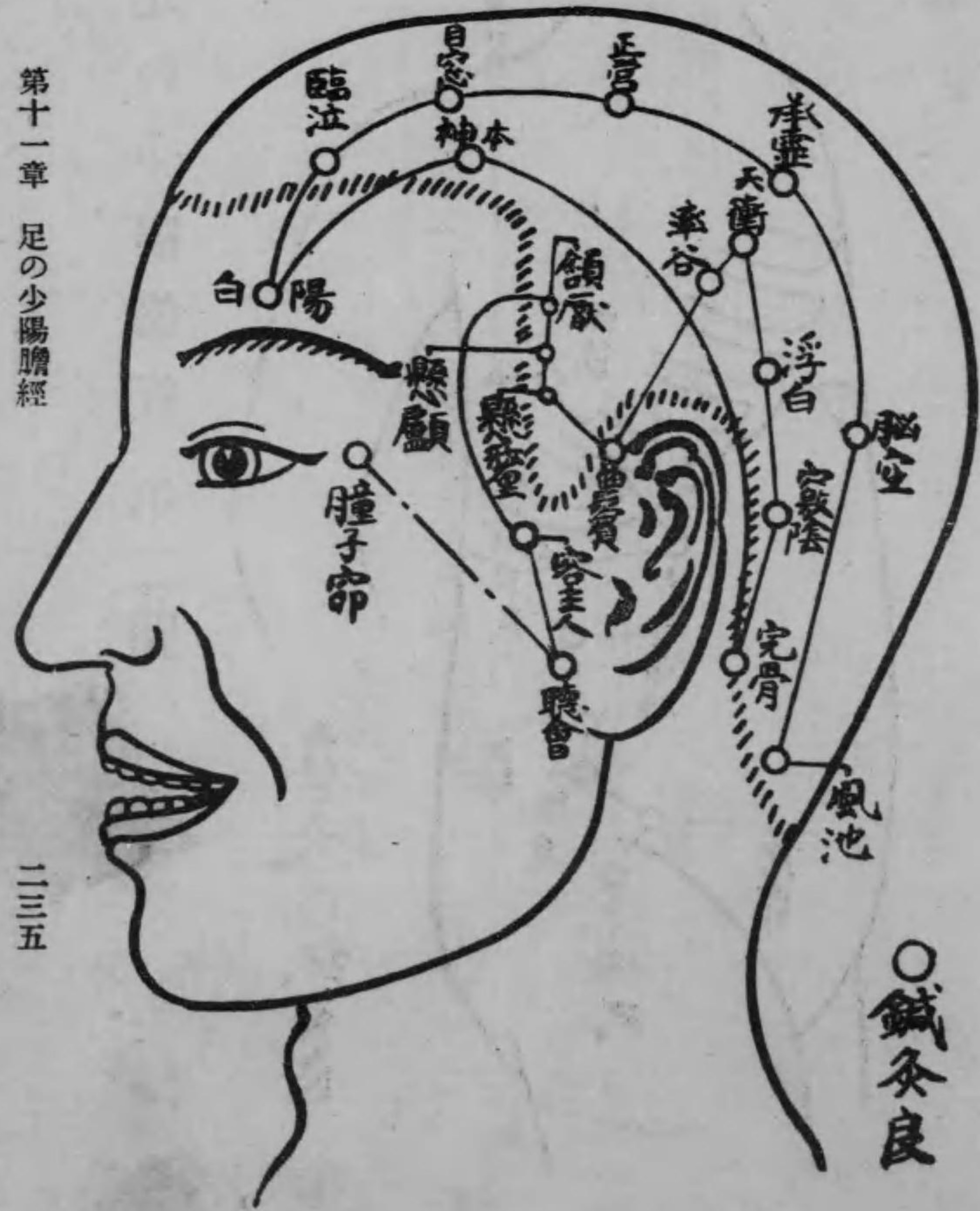
位置 第四趾と第五趾との間、第一節の前中央陷中にあり。

解剖 第四趾骨と第五趾骨との第一節の前、岐骨の間にして、長總趾伸筋附着部の外側なり、趾背動脈循れり、趾背神経分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至五壯、

主治 肺充血又は心胸神経痛或は耳聾、眩暈、外腎炎、頰頰炎及び乳

足少陽膽經第一圖



第十一章 足の少陽膽經

二三五

第十一章 足の少陽膽經  
癰を治す、其他下肢の麻痺に効あり。

二三四

(四三) 竅 陰

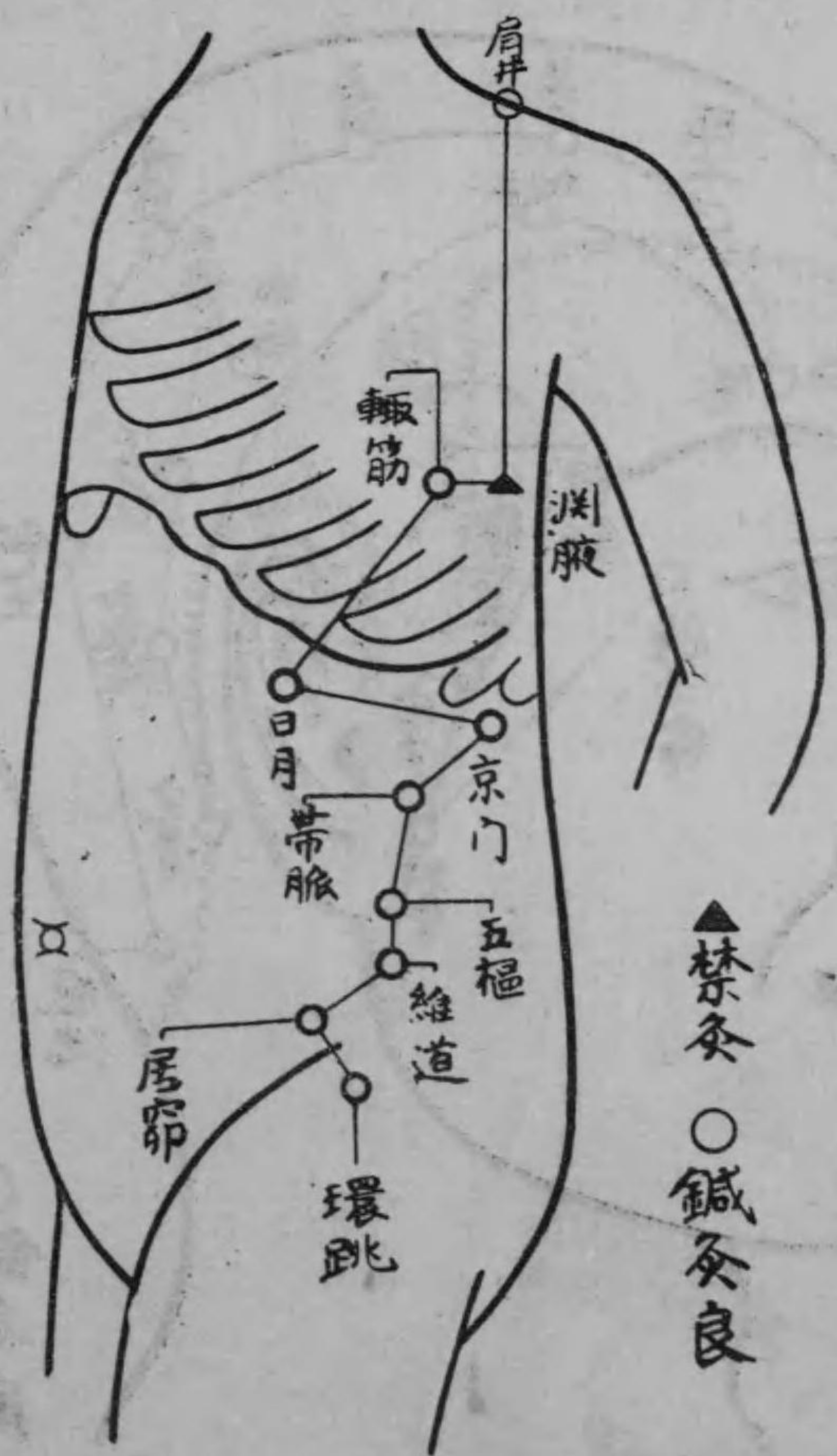
位置 第四趾の外側爪甲を去る事一分にあり。

解剖 第四趾骨第三節の外側、爪甲の發生根部にして同前、

療法 鍼一分、灸三壯乃至五壯、

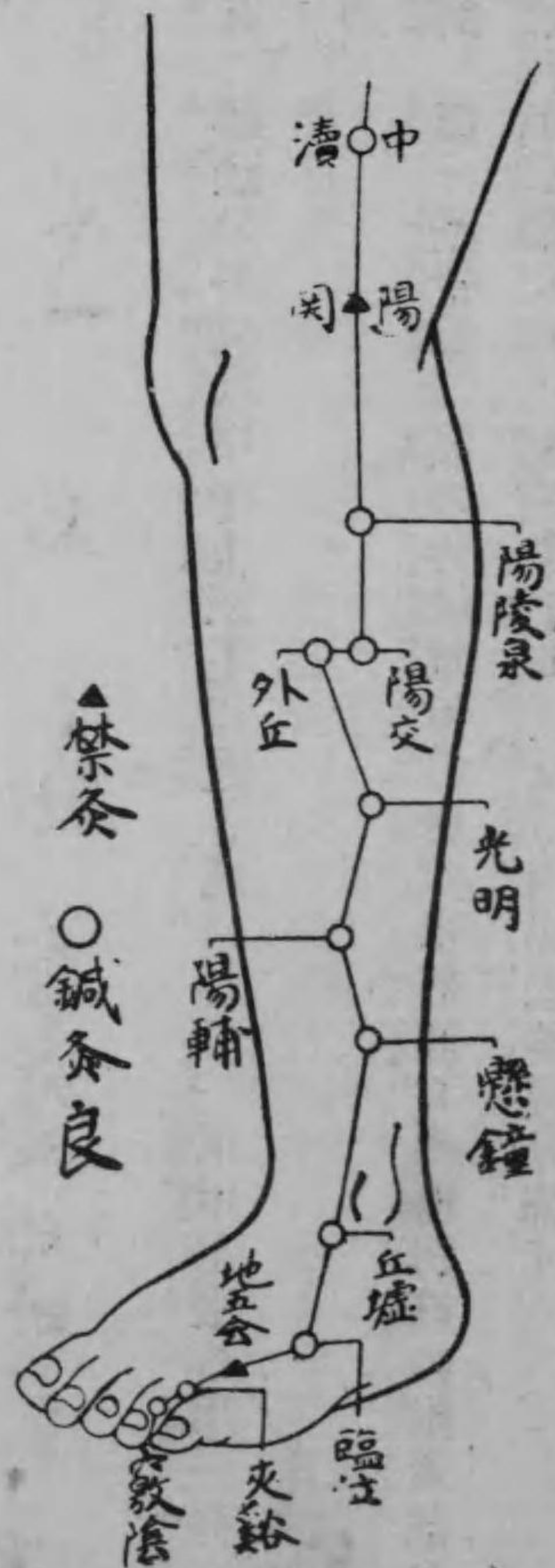
主治 肋膜炎、心臟肥大、咳逆又は頭痛、口内乾燥に効あり、其他耳聾、眼球神経痛又は乳癰を治す。

足の少陽膽經 第二圖



▲禁灸 ○鍼灸良

足の少陽膽經 第三圖



▲禁灸 ○鍼灸良

第十二章 足の厥陰肝經 十三穴 左右合せて二十六穴

(一) 太 敦 (異名) 水泉 太 順

位置 跗趾の外側爪甲の上三毛に近き處にして、爪甲を去る事一分にあり。

解剖 第一跗骨第二節の外側爪甲の發生根部即ち内轉跗筋の附着部なり 趾背動脈循れり、淺在腓骨神經及び内側蹠神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯乃至七壯、

主治 上腹部及び臍部膨脹、冷却、腸疝痛、或は腰神經痛、便秘、遺尿 陰莖痛、癩病、糖尿病に効あり、其他月經過多、子宮脱出を治す。

(二) 行 間

位置 跗趾と二趾との間第一節の後にあり。

解剖 第一及び第二腔骨間腔にして同前。

療法 鍼三分、灸五壯乃至七壯、

主治 腦貧血、癲狂症、腹膜炎、神經性心悸亢進に効あり、其他腸神經痛、便秘、遺尿、陰莖痛、糖尿病又は月經過多、小兒急性性搐搦を治す。

(三) 太 衝

位置 第一蹠骨と第二蹠骨との接際部の微前にあり。

解剖 第一第二跗骨と、第一楔状骨との關節前部にして、長伸躡筋と短

伸躡筋との間にあり、神經動脈同前。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 胸脇神經痛、腰神經痛、下腹痙攣、痲疾、子宮出血等に効あり。

(四) 中 封 (異名) 懸泉

位置 内踝の下一寸、前に行く事一寸陷中、足を仰けて之を取る。

解剖 第一楔状骨内側、舟状骨結節上部にして、前頸骨筋腱の外側に

あり、前内踝動脈循れり、大薺薇神經及び深腓骨神經分佈す。

療法 鍼四分、灸三壯乃至五壯、

主治 膀胱加答兒、痲疾、黄疸、食慾不進、全身痲痺、下肢冷却を治す

(五) 蠡 溝 (異名) 交儀

位置 内踝の上五寸にして脛骨陷中にあり。

解剖 脛骨部にして、脛骨筋又は比目魚筋を有す、脛骨動脈の分枝循れ

り、脛骨神經分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 腸神經痛、下腹痙攣、神經性心悸亢進症、又は脊髄炎より來る下

肢の痲痺、尿閉、子宮内膜炎、月經不順に効を奏す。

(六) 中 都 (異名) 中郛 太陰

位置 内踝の上七寸にして同前、

解剖 同前、

療法 鍼三分、灸三壯、

主治 膝關節炎又は咽喉加答兒に効あり。

(七) 膝 關

位置 膝關節の内側、曲泉穴の直下にあり。

解剖 脛骨内縁の上部にして、腓腸筋を有す、膝關節動脈循れり、腓

骨神經及び坐骨神經分佈す。

療法 鍼四分、灸五壯、

主治 關節痲痺質斯、殊に膝關節内側部の疼痛に効あり。

(八) 曲 泉

位置 膝蓋骨内縁の下部にして、膝窩窩横紋の頭にあり、膝を屈して之を取る。

解剖 脛骨内關節蹠の下際にして、半腱及び半膜様筋の停止部なり、膝

關節動脈循れり、脛骨神經及び「サフヘナ」神經分佈す。

療法 鍼六分、灸三壯乃至七壯、

主治 腸神經痛、陰股神經痛及び神經痙攣、胸腹部の痙攣又は四肢神經痛に効あり、其他尿閉、陰門瘙痒、陰門腫痛、子宮脱出を治す。

(九) 陰 包 (異名) 陰胞



位置 大腿骨内上踝の上四寸にあり。

解剖 大腿の内側内上踝の上方四頭股筋の内縁にして、外廻旋股動脈

循れり、股神經、前及び内股皮下神經分佈す。

療法 鍼五分、灸三壯、

主治 腰臀部痙攣、下肢痙攣、又は尿閉、月經不順を治す。

(一〇) 五里

位置 氣衝穴の下三寸にして動脈手に應ずるあり。

解剖 耻骨突起の下端にして、内轉筋の内縁にあり、外陰部動脈循れり

股神經及び腰鼠蹊神經分佈す。

療法 鍼五分、灸五壯、

主治 胸膜炎又は慢性感冒にて、衰弱症に陥りたるに効あり。

(一一) 陰廉

位置 氣衝穴の下二寸にあり、即ち鼠蹊腺の下部に當る。

解剖 同前、

療法 鍼三分、灸三壯、

主治 不妊症に効あり、殊に處女にありては其効著大なり。

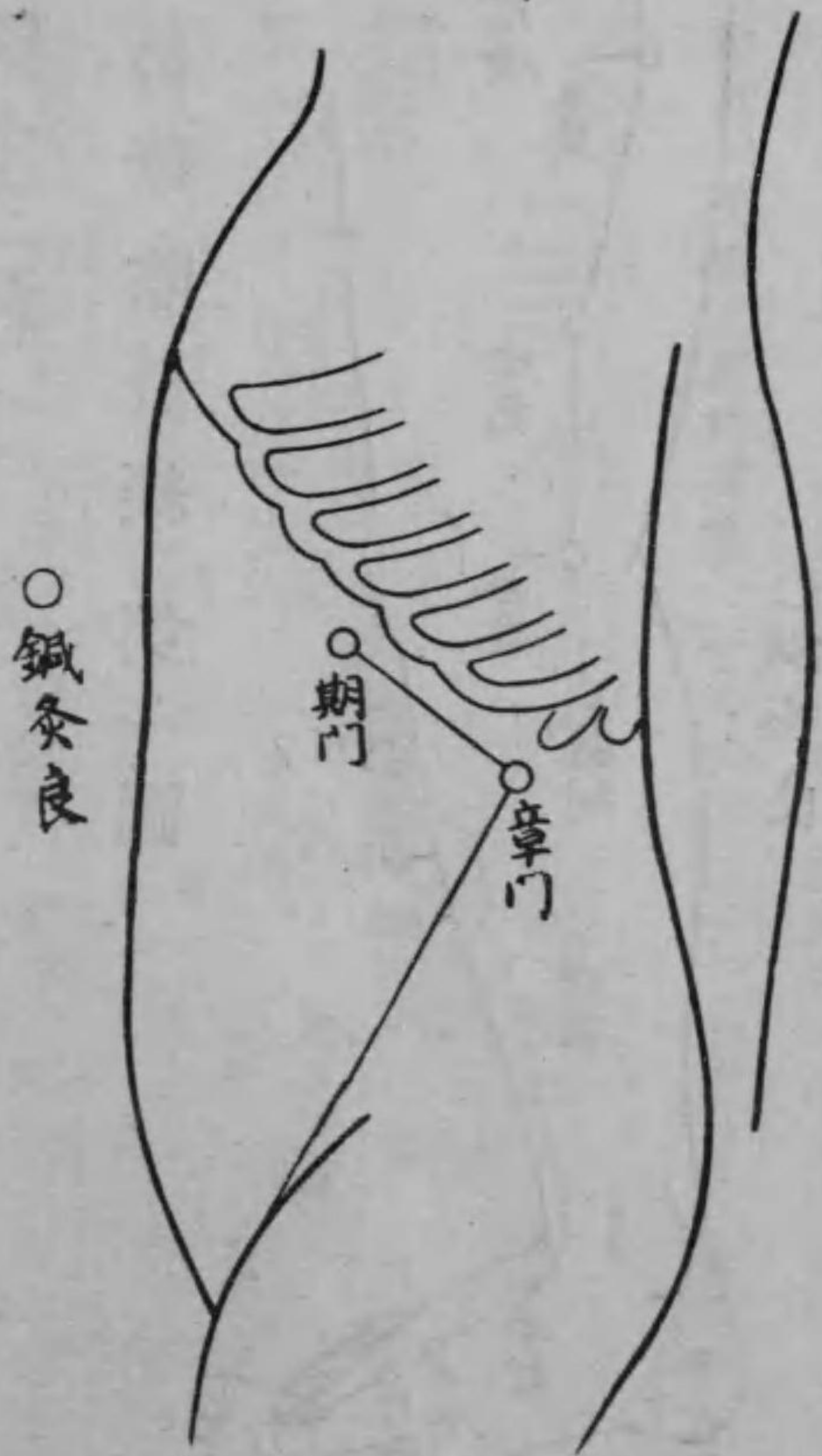
(一二) 章門 (異名) 長平 脇竅 肋竅 脾募

位置 十一肋前端なり、側伏し下足を伸し上足を屈して之を取る。

解剖 第十一肋軟骨前端部にして、内外斜腹筋中にあり、上腹動脈循



足の厥陰肝經 第二圖



第十三章 督脈 經二十七穴

(一) 長

強 (異名)

氣之陰部 窮骨 骨骹 龍虎穴  
 曹溪路 尾翠骨 氣部 骹上  
 橛骨 龜尾 尾閭 尾骹  
 三分間 河車 朝天嶺  
 上天梯

位置 尾閭骨尖端と肛門との中央にあり。

解剖 薦骨の下部、薦骨韌帯の下端にして、外肛門括約筋の起始部なり、大臀筋を有す、下臀動脈循れり、尾閭骨神経分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯乃至二十壯、  
 主治 慢性痔疾、腰椎神経痛、癲狂病、腸出血、又は膽汁下痢に効

あり、其他小兒の顛陷、嘔吐、慢性搐搦、又は慢性痲疾に奏効す。

(二) 腰

俞 (異名)

腰柱 背解 腰戸 隨孔 隨府 隨俞 隨空

位置 第四、第五薦骨椎の癒着部にあり。

解剖 薦骨管裂孔にして、尾閭骨屈筋の間なり、下腎動脈循れり、薦骨

神經後枝又は交感神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯乃至十五壯、

主治 腰背神經痛、下股の冷却症、月經閉止、尿黄色等に奏効す。

(三) 陽關

位置 第四腰椎の下にあり。

解剖 第四腰椎棘上突起と第五腰椎との關節部にして、薦骨脊柱筋を

有す、肋間動脈循れり、腰椎神經の後枝分佈す。

療法 鍼五分、灸五壯乃至十五壯、

主治 膝關節炎、腰椎神經痛、又は下腹鼓脹して下痢するに効あり。

(四) 命門 (異名) 屬略

位置 第二腰椎の下にあり、

解剖 第二及び第三腰椎棘上突起の間にして同前。

療法 鍼三分、灸七壯乃至十五壯、

主治 頭痛、小兒腦膜炎、腸疝痛、腰神經痛、痔疾等に効あり。

(五) 懸 樞

位置 第一腰椎の下にあり。

解剖 第一及び第二腰椎棘上突起の間にして同前。

療法 鍼三分、灸七壯乃至十五壯、

主治 腰脊神經痙攣、急性腸加答兒、又は胃腸神經痛に効あり。

(六) 脊 中 (異名) 脊俞 神宗

位置 第十一胸椎の下にあり。

解剖 第十一及び第十二胸椎棘上突起の間にして、腰背筋膜の起始部

なり、胸背動脈循れり、肩胛下神經分佈す。

療法 鍼四分、

注意 禁灸、

主治 癲癩、狂疾、黃疸、又は腹部鼓脹して食を嗜まざるに効あり、其

他腸出血、小兒の脱肛及び痔疾を治す。

(七) 筋 縮

位置 第九胸椎の下にあり。

解剖 第九及び第十胸椎棘状突起の間にして同前。

療法 鍼四分、灸三壯、

主治 癲癩、狂疾又は背脊神經痛、轉目上視を治す。

(八) 至陽

位置 第七胸椎の下にあり。

解剖 第七及び第八胸椎棘状突起の間にして同前。

療法 鍼五分、灸七壯。

主治 腰背神經痛、胃部厥冷症、黃疸、不食、腸雷鳴に効あり。

(九) 靈臺

位置 第六胸椎の下にあり。

解剖 第六及び第七胸椎棘状突起の間にして同前、而して大菱形筋起

始部なり、長背筋を有す。

摘要 禁鍼禁灸穴なるを以て療法主治を略す。

(一〇) 神道 (異名) 臑俞

位置 第五胸椎の下にあり。

解剖 第五及び第六胸椎棘状突起間にして、僧帽筋及び腰背筋膜の起

始部なり、胸背動脈循れり、肩胛下神經分佈す。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 頭痛、腦神經衰弱、頰頰炎、頰車脱臼、又は小兒の搐搦を治す。

(一一) 身柱 (異名) 臑氣

位置 第三胸椎の下にあり、

解剖 第三及び第四胸椎棘状突起の間にして、棘間靭帯及び僧帽筋の  
 起始部なり、横頸動脈の分枝循れり、副神経、肩胛背神経分佈す。  
 療法 鍼四分、灸五壯乃至三十壯、  
 主治 癩癧、狂疾、小兒搐搦、腦神經衰弱、氣管支炎、衄血等を治す。

(一一一) 陶道

位置 第一胸椎の下にあり。  
 解剖 第一及び第二胸椎棘状突起間にして同前。  
 療法 鍼三分、灸五壯、  
 主治 頸項部及び肩胛部の諸筋痙攣、又は間歇熱等に効あり。

(一一三) 大椎

位置 第一胸椎の上にあり。  
 解剖 第七頸椎及び第一胸椎棘状突起間にして同前。  
 療法 鍼四分、灸五壯乃至十五壯、  
 主治 間歇熱、肺氣腫及び衄血、嘔吐、黃疸、或は併私的里に効あり、  
 其他頸項部痙攣、又は骨膜炎若しくは齒齦炎を治す。

(一四) 瘻門

位置 風府穴の下五分、後髮際入る事五分陷中にあり。  
 解剖 頸椎第一椎と第二椎との間にして、僧帽筋間にあり、後頭動脈の

分枝循れり、頸椎神經の後枝分佈す。

療法 鍼三分、深刺を禁す。

注意 禁灸、

主治 舌骨筋麻痺、舌下軟瘤、「重舌」咽喉炎に効あり、其他腦充血、腦膜炎、衄血、又は脊髄炎に奏効す。

(一五) 風 府

(異名) 鬼枕 鬼穴 舌本 曹谿

位置 後頭結節の直下陷中にあり。

解剖 後頭骨後部と第二頸椎との間、陷凹部にして、僧帽筋間にあり、

後頭動脈循れり、大後頭神經分佈す、深部に延髄あり。

療法 鍼三分、

注意 禁灸、

主治 頭痛、頸項神經痛、衄血、咽喉加答兒、癲狂症、中風、黃疸を治す。

(一六) 腦 戶

(異名) 合巔 匣風 會額

位置 強間穴の後、一寸五分陷中にあり。

解剖 外後頭結節部にして、後頭筋あり、後頭動脈循れり、大及び小後

頭神經分佈す。

摘要 禁鍼禁灸穴なるを以て療法主治を略す。

(一七) 強 間

(異名) 大羽





解剖 顛頂骨部にして、帽狀腱膜あり、顛顛動脈の前枝及び顔面靜脈の分枝循れり、前額神經分佈す。

療法 鍼二分、灸三壯乃至七壯。

主治 腦充血、腦貧血、顔面充血、水腫病、小兒搐搦、鼻茸等に効あり。

(一一一) 顛

會

(異名) 顛上 顛門 鬼門 頂門

位置 前髮際入る事二寸にあり。

解剖 前頭骨と顛頂骨との縫合部にして、帽狀腱膜あり、淺顛顛動靜脈循れり、上眼窩神經、前頭神經分佈す。

療法 鍼一分、灸三壯。

注意 小兒滿七歳以下は、顛門未だ縫合せざるを以つて、鍼灸共に禁穴

とす。

とす。

主治 腦貧血にて頭痛、眩暈、顔面蒼白となるに効あり、其他衄血、顔面充血、多眠症を治す。

(一一二) 上

星

(異名) 鬼堂 明堂 神堂

位置 前髮際を入る事一寸にあり。

解剖 前頭骨部にして、前頭筋あり、前頭動靜脈循れり、顔面神經の額骨枝、及び前額神經分佈す。

療法 鍼二分、灸五壯。

主治 顔面充血、前額神經痛、鼻茸、鼻孔閉塞、衄血に効あり、其他角

膜白翳、眼球充血、又は間歇熱を治す。

(二二三) 神

庭 (異名) 髮際

位置 前髮際を入る事五分にあり。

解剖 同前。

療法 灸五壯、注意 禁鍼。

主治 前額神經痛、眩暈、又は急性鼻加答兒に効あり、其他淚腺加答兒嘔吐を治す。

(二二四) 素

膠 (異名) 面王

位置 鼻柱尖端にあり。

解剖 鼻軟骨尖端部にして、鼻壓縮筋中にあり、口角動脈の分枝循れり

外鼻神經及び篩骨神經分佈す。

療法 鍼一分。

注意 禁灸。

主治 鼻茸、鼻瘡、涙液過多、又は鼻孔閉塞、衄血等を治す。

(二二五) 水

溝 (異名)

人中 鼻人中 鬼宮  
鬼客聽 鬼市

位置 鼻柱の下水溝の正中にあり。

解剖 鼻中隔の直下にして、口輪匠筋中にあり、外顎動脈の分枝上唇動脈循れり、下眼窩神經、及び顔面神經の頰岐分佈す。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 糖尿病、水腫病、或は癩癩、腦充血、口眼諸筋收縮及び瘻瘻に

効あり。

(二六) 兌端

位置 水溝穴の下、上唇の上端にして外皮と粘膜との間にあり。

解剖 口輪匠筋部にして、上唇冠狀動脈あり、同前。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 癩癧、尿黄色、又は舌乾き唇強るを治す。

(二七) 艮交

位置 上唇繫帶部にして、齒上齦縫中にあり。

解剖 上顎骨齒槽突起上部の粘膜部にして前鼻棘の下端に當る口括約筋

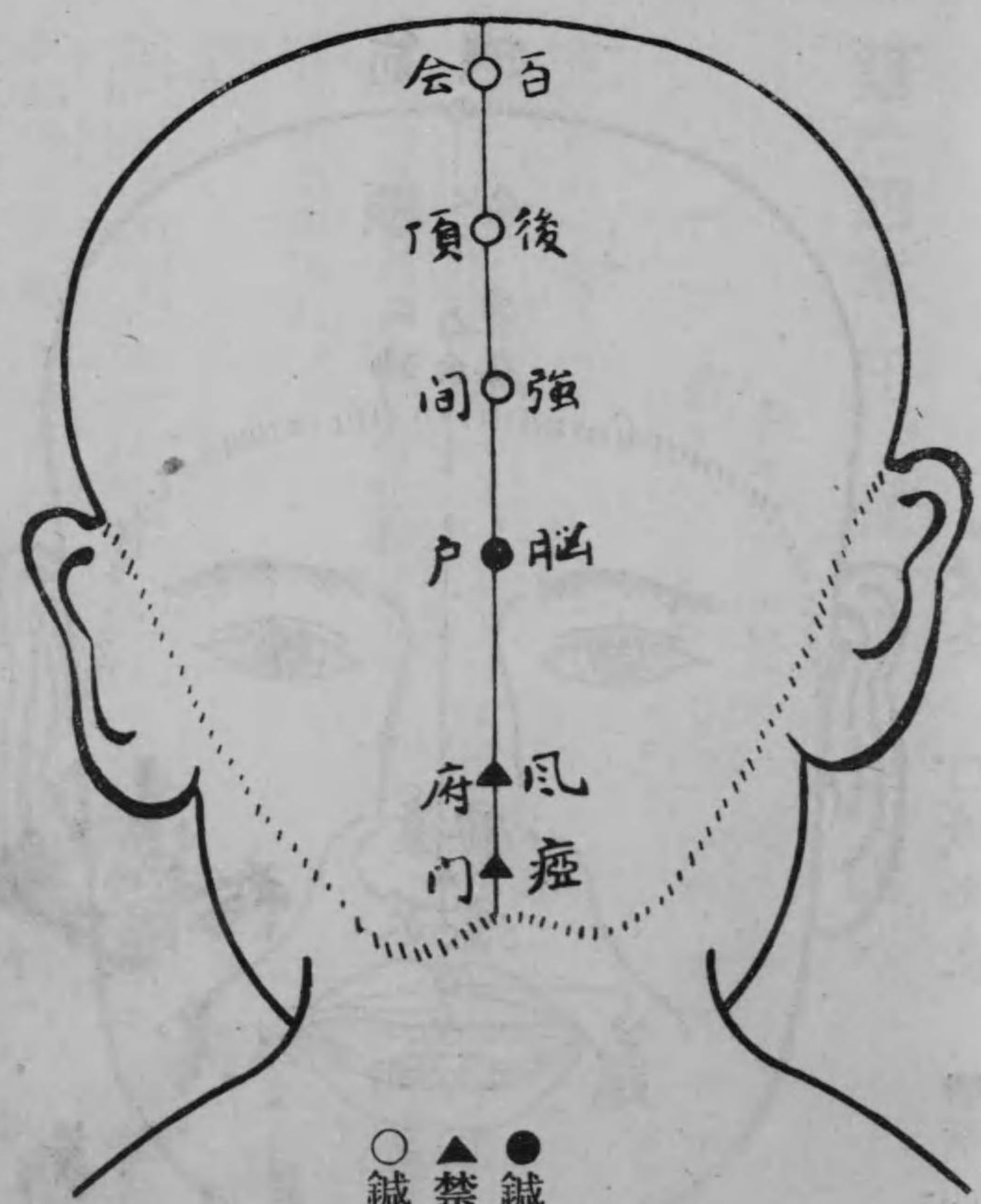
あり、口冠狀動脈循れり、前上齒槽神經分佈す。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 鼻茸、蝕瘡、鼻塞を治す、其他頸項神經痛、涙液過多、内腎充血、瘙痒、角膜白翳に効あり。

督脈經第二圖

第十三章 督脈經

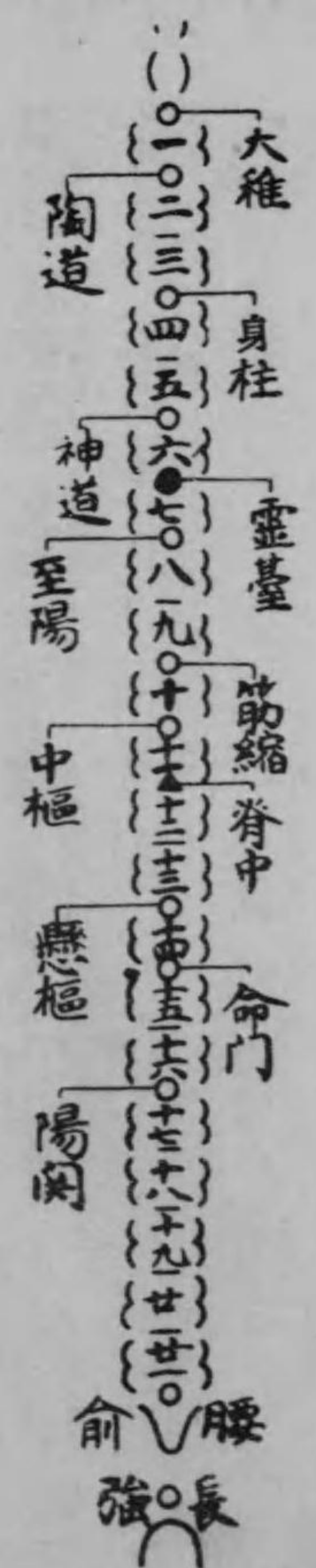


● 鍼灸禁  
▲ 禁灸  
○ 鍼灸良

二六九

督脈經第一圖

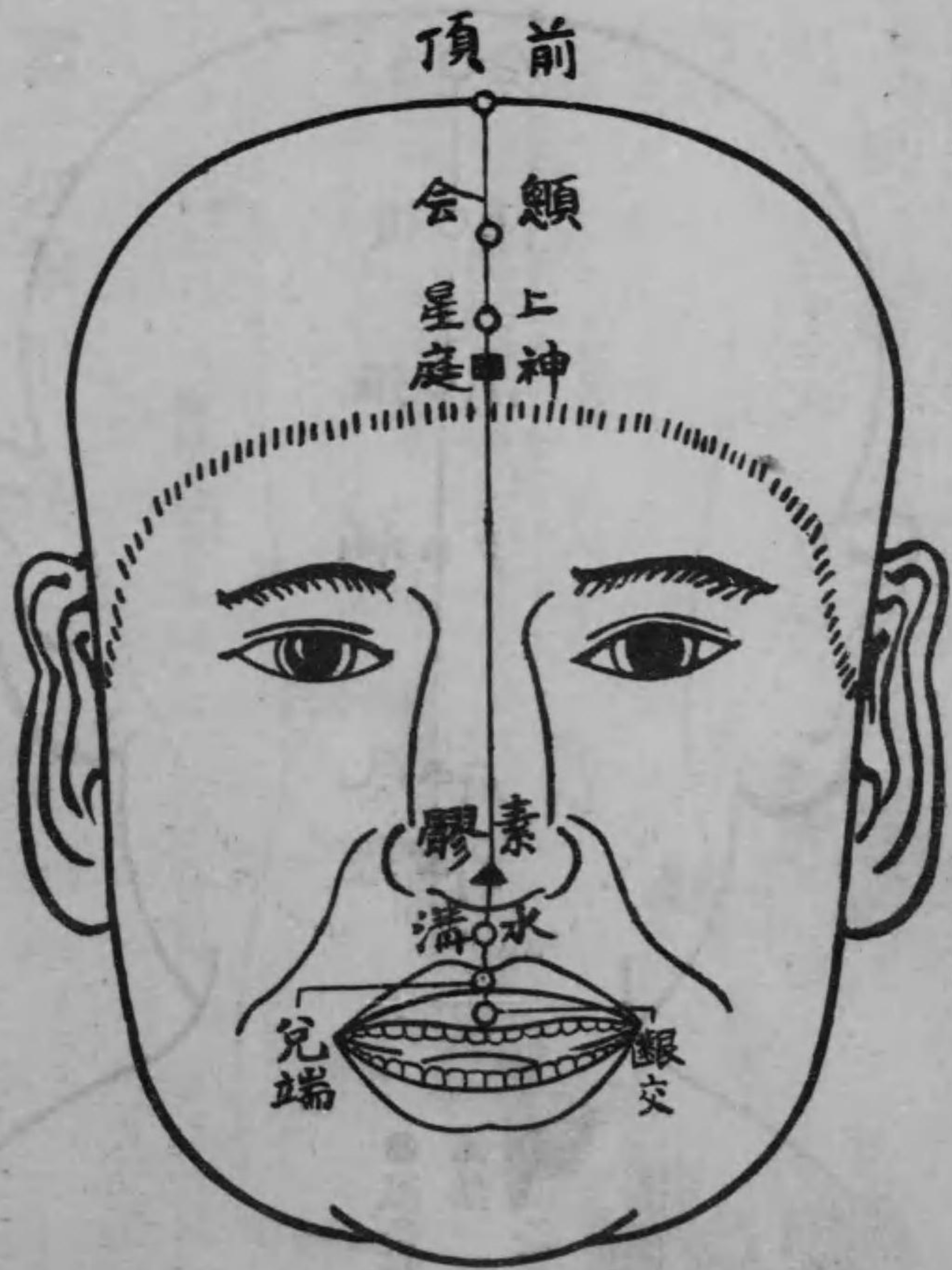
第十三章 督脈經



● 禁灸 ▲ 禁灸 ○ 鍼灸良

二六八

督脈經第三圖



▲禁灸 ○鍼灸良 ■禁鍼

第十四章 任脈經二十四穴

(一) 會陰 (異名) 金門 平鹽 下極

位置 會陰部の中央にあり。

解剖 陰囊後端と肛門との中央、女子は大陰唇後連合と肛門との中間にして、外痔動脈循れり、會陰神經分佈す。

療法 灸三壯乃至五壯、

注意 禁鍼、

主治 陰汗及び陰門疼痛或は尿閉、便秘、月經不通、又は慢性痔疾を治す、其他溺死者甦りの奇穴なり。

(一一) 曲

骨

(異名) 尿胞 尿管端 回骨 風骨

位置 臍下五寸にあり。

解剖 耻骨軟骨接合の上際にして、直腹筋停止部の中間にあり、下腹壁動脈循れり、腸骨下腹神経分佈す。

療法 鍼五分、灸七壯、

主治 内臓虚弱、失精、下腹痙攣、膀胱加答兒、痲疾、尿閉を治す、其他子宮内膜炎、子宮瘻瘍、子宮出血又は産後の惡露止ざるに効あり。

(三) 中

極

(異名) 氣原 玉泉 膀胱募 氣魚

位置 臍下四寸にあり。

解剖 耻骨軟骨接合上際の上部にあり、白條線中にあり、同上。

療法 鍼八分、灸五壯乃至十五壯、

主治 失精又は水腫病、尿頻數、膀胱括約筋麻痺又は不妊症に効あり 其他同前。

(四) 關

元

(異名) 下紀 次門 丹田 大中極 小腸募

位置 臍下三寸にあり。

解剖 下腹部にして、白條線中にあり、下腹壁動靜脈循れり、肋間神經前穿行枝分佈す、深部に小腸あり。

療法 鍼一寸乃至一寸五分、灸七壯乃至十五壯、

注意 妊婦には禁鍼禁灸とす、凡て妊婦に對しては、臍部以下の腹部諸

穴は鍼灸すべからず。

主治 消化不良、慢性腸加答兒、腸出血、下腹部痙攣又は水腫病を治す、其他腎臟炎、睪丸炎、慢性子宮病又は攝護腺炎、蛋白尿、痲疾、尿閉に効あり。

(五) 石

門 (異名)

利機 精露 丹田 命門  
三焦募

位置 臍下二寸にあり。

解剖 同前、

療法 鍼五分乃至八分、灸七壯乃至十五壯、

主治 慢性腸加答兒、消化不良、子宮神經痙攣、水腫病、吐血、盲腸炎、腸間膜炎に効あり、其他小兒の脾疳又は痲疾を治す。

(六) 氣

海 (異名)

浮膜 下盲 丹田

位置 臍下一寸五分にあり。

解剖 同前。

療法 鍼八分、灸七壯乃至十五壯、

主治 總ての精神病又は盲腸炎、腹部冷却、腸神經痛、腸加答兒、腸出血、子宮出血、膀胱加答兒に効あり、其他月經不順、小兒の遺尿、膀胱括約筋痲痺を治す。

(七) 陰

交 (異名)

横戸 丹田 少關

位置 臍下一寸にあり。



解剖 同前。

療法 鍼八分、灸七壯。

主治 精神病又は陰汗濕癢、腰部膝部の痙攣、或は婦人尿道加答兒、子宮内膜炎、月經不順、産後血暈、惡露不止に効あり、其他小兒の顛陷を治す。

(八) 神

闕 (異名) 臍中 氣舍

位置 臍の正中にあり。

解剖 腹部の中央にして、白條線中にあり、上腹壁動靜脈循れり、肋

間神經前穿行枝分佈す、深部に小腸あり。

療法 食鹽を布きて其上に灸三壯乃至三十壯すべし。

注意 禁鍼、

主治 腦溢血又は慢性腸加答兒にて下痢するに効あり、其他水腫病、腹部鼓脹、腸雷鳴、或は婦人の脱肛、又は急性の諸病に奏効す。

(九) 水 分 (異名) 分水 中守

位置 臍上一寸にあり。

解剖 上腹部にして同前、

療法 鍼五分、灸七壯乃至十五壯、

主治 水腫病、腹部鼓脹、腸神經痙攣、局發痙攣、腸雷鳴、慢性腸加答兒に効あり、其他胃弱、不食、腰背痙攣又は小兒の顛陷を治す。

(一〇) 下 腕

位置 臍上二寸にあり。

解剖 同前。

療法 鍼八分、灸七壯乃至十五壯。

主治 胃擴張、胃痙攣、消化不良、慢性胃加答兒、及び腸加答兒に効あり、其他嘔吐、又は尿血を治す。

(一一) 建 里

位置 臍上三寸にあり。

解剖 同前。

療法 鍼五分乃至八分、灸五壯乃至十五壯。

主治 水腫病、或は嘔吐、消化不良又は腹膜痙攣を治す。

(一二) 中 腕 (異名) 大倉 胃募

位置 臍上四寸にあり。

解剖 同上深部に横行結腸、或は小腸あり。

療法 鍼五分乃至八分、灸七壯乃至十五壯。

主治 慢性胃加答兒、胃擴張、胃痙攣、胃出血、腸神經痛、胃癌に効あり、其他腹膜炎、又は腎臓炎、食欲不進、消化不良、泄瀉、或は寄生虫に効を奏す。

(一三) 上

腕

(異名) 胃腕 上紀 胃管 上管

位置 臍上五寸にあり。

解剖 同上、深部に腹膜を通じて胃又は横行結腸あり。

療法 鍼五分乃至八分、灸七壯乃至十五壯、

主治 同上、其他氣管支加答兒、膈間膜炎、或は心悸亢進又は小兒脾癩に効あり。

(一四) 巨

闕

(異名) 心 募

位置 臍上六寸にあり。

解剖 同上、深部に肝臓あり。

療法 鍼六分、灸七壯乃至十五壯。

主治 心臓外膜炎、氣管支加答兒、横膈膜痙攣、胃痙攣、直腹筋痙攣に効あり、其他吐瀉、嘔吐、不食、腹部鼓脹、咳嗽を治す。

(一五) 鳩

尾

(異名) 尾翳 髓膈 神府 膈々

位置 胸骨劍上突起の下五分にあり、劍上突起手に觸れざれば胸骨下端の下、一寸に取るべし。

解剖 上腹部にして、白條の起始部にあり、上腹壁動靜脈循れり、肋間神経の前穿行枝分佈す、深部に肝臓あり。

療法 鍼三分乃至五分、灸三壯乃至五壯。

主治 心臓炎又は胃炎の急性症に効あり、或は神経衰弱症、癲狂病、

喘息、咽喉炎を治す。

(一六) 中庭

位置 膻中穴の下一寸六分陷中にあり。

解 胸骨體部にして、内乳動脈の分枝循れり、肋間神經分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯。

主治 肺充血、喘息、扁桃腺炎、食道狭窄、嘔吐に効あり、其他小兒の吐乳を治す。

(一七) 膻中 (異名) 元兒 元見 上氣海

位置 玉堂穴の下一寸六分陷中、即ち兩乳の間にある。

解剖 同前。

療法 灸三壯。

注意 禁鍼。

主治 胸膜神經痛、食道狭窄、又は食道癌に効あり、其他氣管支炎或は乳閉又は小兒の吐乳を治す。

(一八) 玉堂 (異名) 玉英

位置 紫宮穴の下一寸六分陷中にあり。

解剖 同前。

療法 鍼三分、灸五壯。

主治 胸膜炎又は喘息或は嘔吐を治す。

(一九) 紫宮

位置 華蓋穴の下一寸六分陷中にあり。

解剖 同前。

療法 鍼三分、灸五壯。

主治 胸膜炎、食道狭窄、肺充血、肺結核、氣管支加答兒を治す、其他胃出血に効あり。

(二〇) 華蓋

位置 璇玑穴の下一寸陷中にあり。

解剖 胸骨把柄と胸骨々體との堺にして、内乳動脈循れり、肋間神経の

前穿行枝分佈す。

療法 鍼三分、灸五壯。

主治 喘息、氣管支加答兒、胸膜炎、肺充血、扁桃腺炎、咽喉加答兒又は聲門筋痙攣に効あり。

(二一) 璇玑

位置 天突穴の下一寸陷中にあり。

解剖 胸骨把柄部の中央にして同上。

療法 鍼三分、灸五壯。

主治 胸膜神経痛、及び麻痺又は肺充血、扁桃腺炎を治す、其他喘息、食道狭窄、胃痙攣に効あり。

(二二二) 天突

位置 喉頭の下三寸陷中にあり。

解剖 胸骨上窩部にして、胸鎖乳嚢筋、胸骨舌骨筋、甲状舌骨筋あり

上甲状腺動脈及び下甲状腺静脈循環れり、下頸皮下神経分佈す。

療法 鍼二分、灸三壯乃至七壯。

摘要 刺鍼の際は鍼尖を下方に向て刺入すべし。

主治 顔面充血、喘息、聲門筋痙攣、咽喉加答兒に効あり、其他扁桃腺

炎、急性舌骨筋麻痺、言語不能、嘔吐、良性腫瘤、腸寄生虫に奏効す

(二二三) 廉泉

位置 喉頭の上一寸陷中にあり、壓せば舌根に應ず。

解剖 舌骨の上方にして潤頸筋あり、甲上腺静脈の通路なり、頸椎神

經の下頸皮下神経分佈す。

療法 鍼三分、灸三壯乃至七壯、

主治 氣管支加答兒、喘息、咽喉加答兒、嘔吐、又は舌下腫にて言語不

能、舌根部諸筋痙攣に効あり、其他涎沫、口瘡を治す。

(二二四) 承漿

位置 下唇の下、頤唇溝の中央陷中にあり。

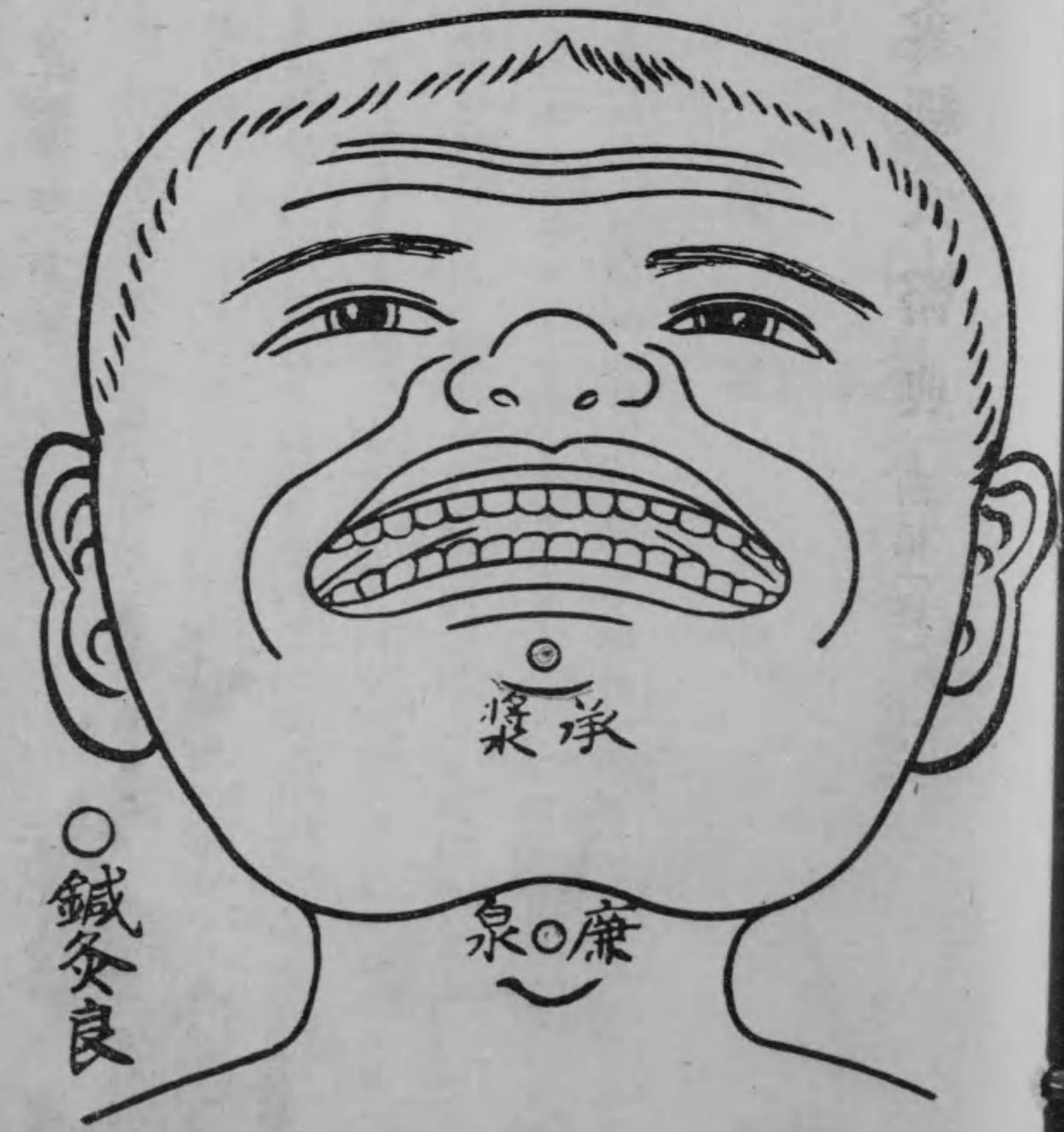
解剖 下顎骨頤結節の上部にして、左右に方形頤筋、及び笑筋あり、口

冠狀動脈循環れり、顔面神経の枝別下顎皮下神経分佈す。

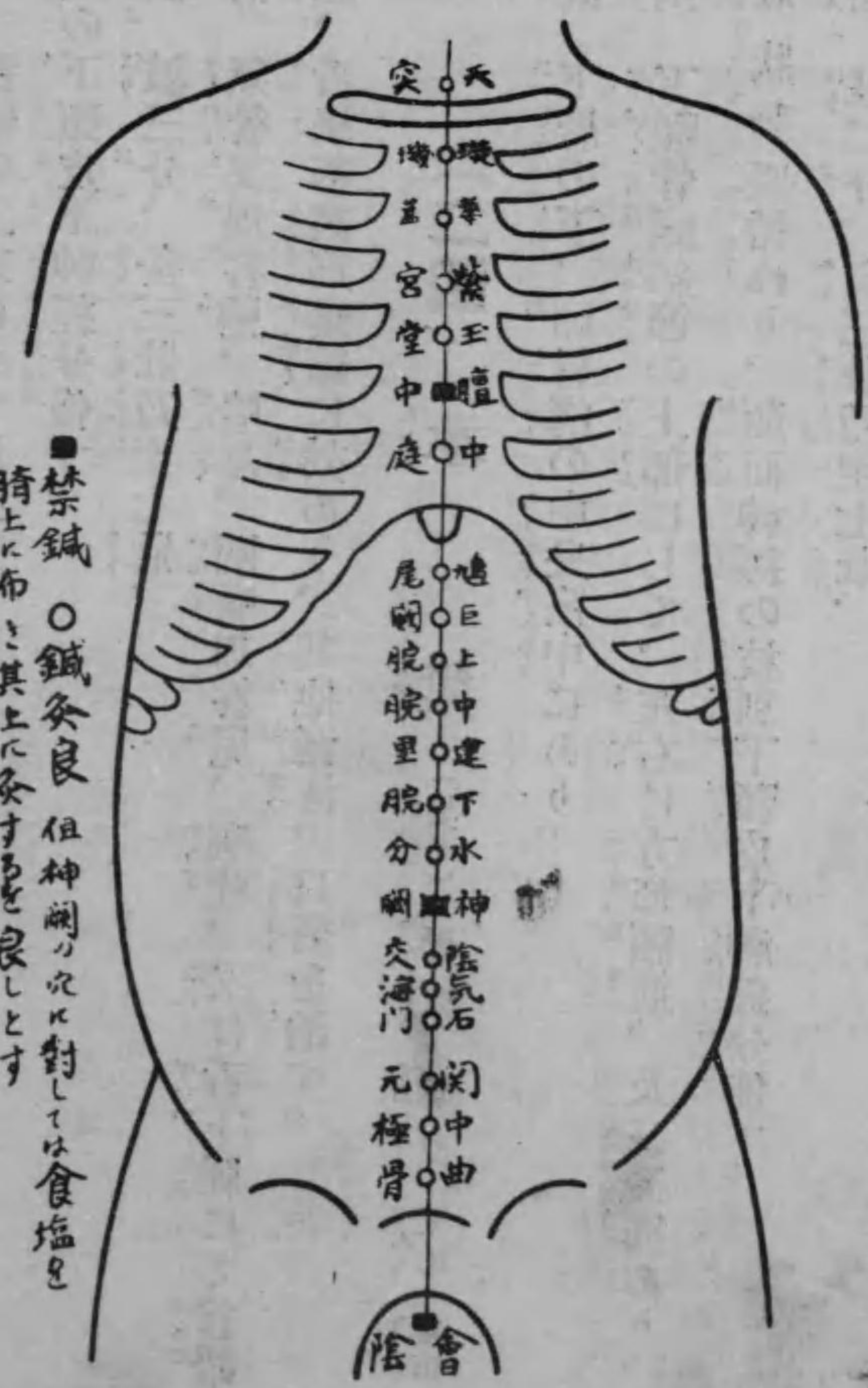
療法 鍼二分、灸三壯乃至七壯、

主治 中風、又は顔面神経麻痺に効あり、其他顔面浮腫、糖尿病、齒

任脈經第二圖



任脈經第一圖



■禁鍼 ○鍼灸良 但神阙の穴に對しては食塩を  
脐上に布し其上に灸すを良しとす

第十四章 任脈經  
神經痛、言語不能又は癲癇を治す。

鍼灸經穴醫典 前編〔終〕



中編 阿是穴 一名 天應穴

緒言

阿是穴と云へば、疼痛ある場所を壓して輕快を覺ゆる處に刺鍼點灸するものなりと云ふ者あれども开は誤りなり。何となれば阿是穴は十四經絡に配列したる正穴以外に於て一定の法則に因つて成れるものにして、之を應用せんと欲するものは、必ず正穴と同様研究せざるべからず。例へば正穴が『藥局方』に記載されたる藥物なれば、阿是穴は『藥局方』以外の藥物の如し。局方外の藥物にも局方藥以上に効能あり、又危險あるものあり。故に局方外の藥物なりと云へども、分量も用法も知らずし



て、亂用すれば雷に効を奏せざるのみならず、危害を及ぼす事あると同様なり。故に古人も阿是穴は正道にあらず田の阿是なる間道なれば之を通行して利益ある場合多しと雖も未熟の者が紊りに通行すれば田を踏むの慮れありとして、初學者には秘して授けざりき。急ぐ道は廻るが安全なりと雖も、地理に精通し充分本道を心得たるものは間道を通行して大に奇効を奏する事あり。されど間道と雖も又一の道路なれば道路に關する法則は守らざるべからざるが如く阿是穴と雖も又經穴の一種なれば經穴に關する方法と同一なりと知るべし。左に最も必要と認むる阿是穴を擧げ參考に供せん。

(一) 痞 根

位置 第一腰椎の下兩側相去る事三寸半陷中にあり。

療法 灸七壯乃至十五壯、鍼三分乃至五分、

主治 不食、胃痿、胃擴張、腸加答兒、腸疝痛、腰神經痛、咳逆を治す。

(二) 腰 眼 (異名) 癸亥

位置 身足を伸して伏臥し、兩掌を重ね額に當てれば、第四及び第五

腰椎の左右に於て凹陷を生ずる中にあり。

療法 灸七壯乃至十五壯、鍼二分、

主治 肺結核、氣管支炎、羸瘦、虛弱、腰神經痛、睪丸炎等に効あり。

(三) 脊背の五穴

位置 先づ第二胸椎の骨上に點し次に尾閭骨尖端に點す、以上上下二ヶ所の間の寸を度り半折して其一折を切り去り残り一折を、第二胸椎骨上に當て垂下し寸の盡たる處に點す、而して又此寸を半折し一折を切り去り残り一折を三つ折となし△の如くし上角を以て中央の一穴に當て其下の二角の當る處に點す合せて五穴なり。

療法 灸各三十壯、小兒には其半數とす。

主治 大人の癩癩又は小兒の搐搦に奇効を奏す。

(四) 濁 浴

位置 第十胸椎の下脊柱を去る事、左右各二寸半にあり。

療法 灸二十壯、

主治 肝臟病を主治す、其他比私的里、食欲不進等に効あり。

(五) 巨闕の俞

位置 第四胸椎の下にあり。

療法 灸二十壯、

注意 禁鍼、

主治 氣管支炎、又は喘息等に偉効を奏す。

(六) 督 俞

位置 第六胸椎の下脊柱を去る事各一寸五分にあり。

療法 灸十五壯、

注意 禁鍼、

主治 心内膜炎、胃痙攣、腸雷鳴、逆上、寒熱往來等を治す。

(七) 中 樞

位置 第十胸椎の下陷中にあり。

療法 灸五壯、

注意 禁鍼、

主治 胸背神経痛を治す。

(八) 接 脊

位置 第十二胸椎の下陷中にあり。

療法 灸五壯乃至七壯、

注意 禁鍼、

主治 脊背神経痛又は胃痙攣、消化不良其他小兒の癩癩に効あり。

(九) 氣 海 の 俞

位置 第五腰椎の下脊柱を去る事各一寸五分陷中にあり。

療法 鍼七分、灸七壯、

主治 腰神經痛又は痔疾等に良効あり。

(一〇) 關元の俞

位置 第一薦骨椎の下、脊柱を去る事各一寸五分陷中にあり。

療法 鍼七分、灸七壯、

主治 感冒後の虛弱症、腰神經痛、尿閉、婦人諸疾等に奇効を奏す。

(一一) 夾脊の穴

位置 顔面を地に伏し、兩手を伸し身につけ、元結を以て其兩肘尖の

所を引回し、脊柱元結の下に當る處に假點をなし、右假點より兩側へ

去る事各一寸半にあり。

療法 灸五十壯、

主治 局發痙攣、轉筋、『コブラガエリ』に奏効す。

(一二) 下極の俞

位置 第三腰椎の下、脊柱を去る事各一寸五分陷中にあり。

療法 灸二十壯、小兒は其半數とす。

主治 膀胱加答兒、腸加答兒、腰神經痛等に効あり。

(一三) 腸風

位置 第二腰椎の下脊柱を去る事兩側各一寸にあり。

療法 灸二十壯、

主治 諸臟慢性病を治す、其他慢性痔疾に効あり。

(一四) 回 氣

位置 尾閭骨尖端にあり。

療法 灸五壯、

主治 便血、又は失尿を治する奇俞なり。

(一五) 竹杖の穴

位置 竹杖を地に柱し直立して、臍迄の寸を量り之を脊中に當て杖の盡る處に點す、即ち命門穴に當る療法主治は命門穴の條下にあり。

(一六) 騎竹馬の穴

位置 元結を以て男は左女は右の手の尺澤穴より、中指末迄の寸を取り、又別の元結を用ゐて、中指の一寸を二折し置き、次に患者をして大なる丸竹の上に跨り乗らしめ、他人二人を以て、竹を扛へしめ、患者の足地を離る事五分許りにして、患者の脊を直立せしめ、右尺澤穴より、中指末迄の寸の元結の片端を跨りたる竹際、尾閭骨尖端にあて脊に隨ふて引上げ、元結の盡る處の脊中に假點す、次に又前に取置たる、中指寸の元結の折目を、右假點に當て、左右元結の兩端に點す、中の假點を拭ひ去れば、即ち騎竹馬の穴なり、然れ共此説は取穴するに甚だ困難なり、第十胸椎の兩側各五分に取るべし。

療法 灸三十壯、

主治 癰疔等總ての悪しき腫物に効あり。

(一七) 咳嗽灸法

位置 元結を以て兩乳頭の通りを周く横に引廻して、前後元結の上下なく正直ならしめ、其元結の當る處脊骨中に點す。

療法 灸五壯、

主治 咳嗽の奇俞なり。

(一八) 小兒灸癖

位置 元結を以て、小兒の臍の正中の通りを引廻して、前後上下なく正

直ならしめ、其元結の當る處、脊骨の正中に一穴を點す。

療法 灸二十壯、

主治 小兒慢性胃弱に効を奏す。

(一九) 小兒疳瘦

位置 尾閭骨の尖端より上る事三寸陷中にあり。

療法 灸三壯乃至十五壯、

主治 小兒腸加答兒、消化不良、脱肛、羸瘦等に効あり。

(二〇) 灸勞穴

位置 人をして直立ならしめ、元結を以て男は左女は右足の中趾尖端

より、足心を過ぎ上に向ひ、膝窩横紋委中穴に至り切斷し此元結を鼻尖より上り量つて頭の正中を過ぎ、脊中に至り、元結の盡るところに點す。

療法 灸七壯、

主治 盜汗、精神病一切、關節疼痛、咳嗽、又は膿血を吐くに効あり。

(二二一) 灸 哮

位置 元結を頸にかけ胸にたらし、元結の兩頭揃へて、鳩尾骨尖端に至つて切斷し、之を結喉に掛け、肩を経て背に垂下し、兩頭揃へて元結の盡くる處に點す。

療法 灸七壯。

主治 氣管支炎又は喘息に奇効を奏す。

(二二二) 中風不語

位置 第二胸椎骨上と、第五胸椎骨上との二穴なり。

療法 灸七壯、上下同時に灸するを良とす。

主治 中風にて言語不能を治す。

(二二三) 厥 逆

位置 元結を以て肘窩横紋の處を引廻し、其太さを量り次に其元結の片端を脊の大椎骨上に當て垂下し、元結の盡くる處の脊中に點す。

療法 灸七壯。

主治 中風又は厥逆を治す。

(二四) 積聚痞塊

位置 第二腰椎の下命門穴の傍各四寸にあり。

療法 病左にある者は左に灸七壯、右にあれば右に七壯す。

主治 胃痙攣、胃擴張、腸痙攣、腸雷鳴又は肋膜炎に効あり。

(二五) 傳屍癆

位置 第一日心俞の上下左右四穴、二日肺俞の上下左右四穴、三日肝俞の上下左右四穴、四日厥陰俞の上下左右四穴、五日腎俞の上下左右四

穴、六日三焦俞の上下左右四穴、以上の順序にて灸する事六日間にして止む、寸法は左右上下各一寸宛なり。

療法 灸七壯。

主治 寄生蟲の奇俞なり。

(二六) 灸血病

位置 第三薦骨椎の上、脊骨高き處に點す。

療法 灸七壯。

主治 吐血、衄血等を治す。

(二七) 疝氣



位置 口吻の廣さを量り二倍となし、之を三折し、其一角を臍の正中に

當て臍下に垂る、兩角の當る處の二穴に點す。

療法 灸十四壯、

主治 痲病一切の奇俞なり。

(二八) 長

谷 (異名) 循際

位置 臍の兩傍相去る事各二寸半にあり。

療法 灸七壯乃至十五壯。

主治 消化不良、下痢、又は食を嗜まざるに効あり。

(二九) 腸

膈

遺

位置 中極穴を去ること左右各一寸二分五厘にあり。

療法 灸十五壯乃至三十壯。

主治 大便秘結を治す。

(三〇) 育

募

位置 乳頭より斜に臍中迄の寸を取り、之を二折し其一折を去り、残り

一折の寸を乳頭にあて下垂し、寸の盡る處則ち穴なり。

療法 灸七壯乃至十五壯、

主治 病後衰弱甚しき者に効あり。

(三一) 治

癩

癩

位置 第一胸椎の頭より尾閭骨尖端迄の寸を量り、之を二折し、其一折の片端を第一胸椎の頭にあて下垂し、寸の盡る處に點す。

療法 灸七壯。

主治 小兒の癩癩を治す。

(三三一) 魂

舍

位置 臍を去る事左右各一寸にあり。

療法 灸五壯。

主治 腸加答兒、消化不良等に効あり。

(三三二) 肋

頭

位置 一肋頭二肋頭の二穴とす、即ち一肋頭は京門穴、二肋頭は章門穴に相當す、依て療法主治等は茲に略す。

(三四) 乳

上 穴

位置 口吻の廣さを度り、其寸の一端を乳頭に當て上行し寸の盡くる處に點す。

療法 灸五壯。

主治 乳病一切の奇愈なり。

(三五) 龍

頷

位置 鳩尾穴の上二寸五分にあり、中庭穴に相當す、故に療法主治等は

中庭穴の條下にあり。

(三六) 肋 罅

位置 元結を以て兩乳の間を量り、其元結を二折し一折を除去り、残り  
の一折の片端を乳頭に當て乳後に向ひて元結の盡る處の肋骨の罅に  
點す。

療法 灸五壯。

主治 肋間神経痛又は肋膜炎等に良効あり。

(三七) 灸 傳 戸

位置 乳後三寸にあり兩乳の間の八寸の法を用ふべし。

療法 灸五壯。

主治 心内膜炎、胸脇神経痛、又は關節炎、腰背痙攣等に効あり。

(三八) 脇 堂

位置 腋窩の下二寸陷中、淵腋穴を斜に上る事一寸の處に當る。

療法 灸三壯。

主治 心内膜炎又は肝臓病を治す其他肋膜炎に効あり。

(三九) 後 腋 下 穴

位置 腋窩の後側横紋の頭にあり。

療法 灸十五壯。

主治 頸部に生ずる瘰癧を治す。

(四〇) 腋 下 穴

位置 腋窩聚毛の下陷中にあり、腋下脇堂穴の微上に當る。

療法 灸三壯、

主治 吃逆又は食道狭窄を治す。

(四一) 獨 陰

位置 跟骨の後横紋の正中にあり。

療法 灸三壯。

主治 難産に効あり。

(四二) 痰 喘

位置 元結を以て腋窩横紋の頭極泉穴より乳中迄の寸を量り之を二折

し切斷して其一折の端を元の極泉穴にあて臆中の穴を的に斜めに引下

し其元結の盡くる處の肋間に左右二穴點す。

療法 灸五壯。

主治 肺氣腫又は喘息に効あり。

(四三) 氣 門 (異名) 癩疔偏大 子宮子戸

位置 關元穴の傍を去る事左右各三寸にあり。

療法 灸五十壯。

主治 早産、子宮出血、畢丸炎等に偉効を奏す。

(四四) 身交

位置 臍下横紋の正中にして臍孔直下(〇)に當る。

療法 灸十五壯。

主治 大小便不通を治す。

(四五) 闌門

位置 陰莖根の兩傍左右各開く事三寸にあり。

療法 鍼六分、灸十五壯。

主治 陰莖強直して緩まざるに効あり。

(四六) 鬼當

位置 拇指外側第二節横紋の頭にあり。

療法 鍼二分、灸五壯。

主治 小兒 腸病又は結膜炎、角膜白翳等に奇効あり。

(四七) 絶孕

位置 臍下二寸三分にあり、即ち石門穴の少し上に當る。

摘要 此穴は女子にありては、亂りに灸すべからず、身を終る迄絶孕との説あり、療法主治等は石門穴に同じ。

(四八) 灸 腋 氣

位置 刀剃を以て腋毛を剃り去て清くし、良き白粉を水にて捏ね、腋窩に塗る事六七日、而して後腋窩を見れば、黒色なる一點現はる、是穴なり。

療法 灸三壯乃至四壯。

主治 腋臭の奇俞なり。

(四九) 咳 嗽

位置 乳頭の直下黒白肉の際にあり。○：灸穴

療法 灸五壯。

主治 總ての咳嗽に奇効を奏す。

(五〇) 欬 逆

位置 乳頭の直下第七肋と第八肋との中央陷中にあり。

療法 灸七壯。

主治 俗に云ふ「シヤクリ」の奇俞なり、又肋膜炎に奏効す。

(五一) 頰門 不合

位置 臍上臍下各五分二穴なり。

療法 灸三壯。

主治 頰門不合に効あり。

(五二) 膀胱氣

位置 陰莖根を去る事左右各一寸にあり。

療法 灸五壯。

主治 陰莖收縮して腹に入らんとするに奇効を奏す。

(五三) 急脈

位置 陰莖の微上兩傍相去る事二寸五分陰毛中にあり。

療法 灸五壯。

主治 睪丸炎及び下腹痙攣等に効あり。

(五四) 横骨

位置 婦人陰毛中耻骨軟骨接合部の中央骨上にあり。

療法 灸七壯。

主治 婦人の遺尿を治す。

(五五) 泉陰

位置 耻骨軟骨接合部を左右へ去る事各三寸にあり。

療法 灸三壯。

主治 睪丸炎に効あり。

(五六) 卒癲病

位置 陰莖の上宛々たる中にあり。

療法 灸三壯。

主治 心臟麻痺、腦溢血、腦貧血等に効あり。

(五七) 印堂

位置 兩眉の正中にあり。

療法 灸三壯。

主治 小兒搐搦、小兒腦膜炎、人事不省、頭部の盜汗等を治す。

(五八) 海泉

位置 舌下の中央靜脈の上にあり。

療法 鍼二分。

主治 渴して飲水を好むに効あり。

(五九) 金津玉液

位置 舌下兩側紫脈の上にあり、左を刺すを金津と云ひ右を刺すを玉液

と云ふ。

療法 鍼二分。

主治 口瘡、扁桃腺炎、舌下軟瘤、又は渴して飲水を好むに効あり。



(六〇) 陽維

位置 耳翼を前に引く時は耳翼の後面筋筋顯る高さ處にあり。

療法 灸三壯。

主治 耳聾、耳鳴等を治す。

(六一) 鼻交頰中

位置 指を以て眉心より鼻莖を按し下れば指止る陷中にあり。

療法 灸一壯。

主治 角弓反張、眩暈、腦溢血、肝臟病等を治す。

(六二) 唇裏

位置 承漿穴は唇下の表、即ち頤唇溝の正中にあり、唇裏の穴は之と

表裏し、唇下口内齒齦に逼るにあり。

療法 鍼三分。

主治 肝臟病を主治す。

(六三) 燕口

位置 口吻兩角赤白肉の際にあり、地倉穴に近し。

療法 灸一壯乃至七壯。

主治 小兒搐搦、大便秘結、尿閉等に効あり。

(六四) 當陽

位置 瞳子直登前髮際に入る事一寸、臨泣穴の後五分に當る。

療法 鍼二分、灸三壯。

主治 眩暈又は鼻塞を治す。

(六五) 小兒食癩

位置 尾閭骨尖端の上五分にあり。

療法 灸一壯乃至三壯。

主治 小兒胃瘕、腸加答兒、消化不良等に効あり。

(六六) 大骨空

位置 拇指第二節内側横紋の頭にあり小指側なり。

療法 灸三壯乃至五壯。

主治 内障眼及び吐瀉を治す。

(六七) 掌尖

位置 中指本節の骨尖上にあり掌を握て之を取る。

療法 灸三壯。

主治 眼球充血又は翳膜疼痛を治す。

(六八) 五虎

位置 食指及び無名指の本節の骨尖上こつせんじやうにあり各一穴かく けつしやうを握にぎつて之を取これる。

療法 灸三壯。

主治 手指拘攣しゆし かうれんするを治す。

(六九) 中魁

位置 中指二節骨尖上ちゆうし せつこつせんじやうにあり、指を屈ゆび かくつして之を取これる。

療法 灸三壯。

主治 食道狭窄しよくだうけうさく、食慾不進しよくよくふしん、胃擴張等みくわくちやうとうを治す其他そなた瘕風かふう「ナマズ」に効あり。

(七〇) 中指三節の穴

位置 中指三節の前ちゆうし せつ まへ、爪甲さうかふの後陷中うしろかんちゆうにあり。

療法 灸三壯。

主治 齒神經痛しんけいとうに奇効きかうを奏そうす。

(七一) 中泉

位置 陽池穴やうめいけつと陽谿穴やうけいけつとの中間陷中ちゆうかんちゆうにあり。

療法 灸七壯、鍼三分はり ぶな乃至五分。

主治 角膜白翳かくまくはくまい、胃痙攣みけいれん、腸疝痛ちやうせんつう、中風ちゆうぶ、腦溢血等なういつけつとうに奏効そうかうす。

(七二) 風牙疼

位置 中指の頭より掌後腕の横紋迄の長さを量り、四折し其一折を以て右横紋より肘窩尺澤穴を的に引き伸し寸の盡くる處兩筋の間にあり病の左右に因て灸の左右を分つ。

療法 灸五壯。

主治 感冒に係り齒神經痛を發したる時に効あり。

(七三) 小兒雀目

位置 拇指第二節外側横紋の頭にあり橈骨側なり。

療法 灸三壯、鍼二分。

主治 小兒の夜盲に奇効を奏す。

(七四) 虎口

位置 拇指と食指との間、合谷穴の前、中央白肉の際にあり。

療法 灸五壯。

主治 頭痛、眩暈を治す。

(七五) 小兒鹽哮

位置 小指の頭尖上にあり、男子は左、女子は右を取る。

療法 灸五壯乃至七壯。

主治 百日咳に奇効を奏す。

(七六) 肘尖

位置 肘外大骨即ち鷹嘴突起の尖上にあり、肘を屈して之を取る。  
療法 灸七壯乃至十五壯。

主治 瘰癧又は癰疔等の惡腫物に奏効す。

(七七) 瘰癧

位置 口吻の廣さを量り、之を二折し、其折目に墨し、次に腕横紋の中央に假點し、右口吻の寸の中央墨點の處を以て、腕の假點にあて、上下左右寸の盡くる處を本點とす、總て四穴なり。

療法 灸五壯。

主治 瘰癧を治す。

(七八) 治轉筋

位置 内踝骨上中央陷中にあり。

療法 瘡一年なれば灸六壯、三年なれば九壯との説あり、其他七壯。

主治 惡瘡潰爛して漏となり、瘡中冷へて瘻肉出づるを治す、其他轉筋「コブラカエリ」、關節痠麻質斯等に奏効す。

(七九) 陰陽穴

位置 跣趾を押し屈め本節の表に骨頭高く表れて其色白光ある外際にあ

療法 灸三壯、

主治 子宮内膜炎、赤白帶下等を治す。

(八〇) 跖趾表横紋の穴

位置 跖趾背第二節横紋の中央にあり。

療法 灸七壯。

主治 痲疾、罌丸炎、腸疝痛、腰神經痛等に効あり。

(八一) 跖趾裏横紋の穴

位置 跖趾の裏第二節横紋の中央にあり。

療法 灸三壯、

主治 罌丸炎に効あり、病左にあれば左、右にあれば右に灸す。

(八二) 跖趾聚毛中の穴

位置 跖趾本節と二節との中間聚毛の中にあり。

療法 灸三壯、

主治 心臟麻痺、腦溢血、腦貧血、眩暈等に効あり。

(八三) 跖趾横理三毛中の穴

位置 跖趾背本節横に却月の如き紋理ある中にあり。

療法 灸七壯、

主治 衄血に奇効を奏す。

(八四) 膝眼

位置 膝蓋の下兩傍陷中にあり。

療法 鍼五分、灸七壯、

主治 膝關節炎、又は膝蓋冷却症に効あり、其他中風を治す。

(八五) 髌骨

位置 膝蓋の上梁丘穴を外方に開く事一寸陷中にあり。

療法 鍼三分、灸五壯、

主治 膝關節炎に良効あり。

(八六) 風市

位置 膝上七寸大腿部外側兩筋の間にあり、直立して兩手を下垂し中指

頭の當る處即ち穴なり。

療法 鍼五分、灸七壯乃至二十壯、

主治 半身不隨、「中風」下肢神經痛に効あり、其他膝部神經痛及び麻痺

又は脚氣等を治す。

(八七) 泉生足

位置 第二趾の裏第二節横紋の中央にあり。

療法 灸三壯、

主治 河豚魚中毒に効あり。

(八八) 腹中氣塊

塊の上際一穴に刺鍼し灸七壯す、而して塊の下際一空刺鍼し、後塊中一穴刺鍼すべし、かゝる場合は経絡の穴を問はず、直に塊の上下又は左右に刺鍼し、次に塊の正中に刺鍼すべし、若し之にて塊消散せざる時は塊下の一穴に灸十五壯すべし、塊必ず消散す、是定まりし俞穴にあらずと雖も、亦阿是の屬類にして諸書に多く掲ぐ。

(八九) 崔知悌四華の穴

唐の崔知悌の作なり、膀胱經の膈俞胆俞の四穴を四華の穴とせり。

(九〇) 同患門の穴

同氏の作なり、第五胸椎兩側、心俞の二穴を患門の穴とせり。

(九一) 張介賓四華の穴

張介賓氏の作なり、大椎の上に假點をなし、元結を以て脛にかけ、元結の中央を右假點にあて胸に下垂し、劍上突起骨の尖端に至り元結の兩端を切り去り、残りの寸を結喉にあて肩に向て脊に垂下し、元結の兩端を揃へ、其兩端の盡たる處に假點し、他の元結を以て鼻中隔の下より人字形に左右口角に當て切り去り、残りの元結の中央に墨點し、脊の假點に右人字形の墨點を當て引伸し其兩端の盡たる處に上下に本點



二穴左右に本點二穴合せて四穴、中の假點を拭ひ去れば、則ち張介賓四華の穴なり。

(九二) 同患門の穴

同張介賓氏の作なり、元結を以て膝膈窩中央委中穴より、下腿後面の中央を足蹠に向けて引廻し、跣趾の尖端に至り切り去り、其元結の一端を鼻尖素膠の穴にあて上行し、頭上を後方に引廻し、脊中に下垂し、其元結の盡きたる處に假點し、更に鼻中隔の下より人字形に元結を左右口角に當て切斷し、其人字形の寸の中央に黑點し、先の脊中の假點に右人字形の墨點を當て、脊中の兩側に引伸し、其元結の兩端の當る處に二穴を求む、是患門の穴なり。

右崔知悌張介賓、兩氏作の四華患門の主治療法を左に掲ぐ。

主治 肺結核、肺氣腫、喘息、氣管支加答兒、虛弱、羸瘦等に効あり、療法は各灸七壯より三十壯までとす。

(九三) 華陀狹脊の穴

第一胸椎の下より第五腰椎の下迄、脊中を去る事各五分にあり、三十四穴皆灸す、灸七壯より十五壯、主治腦及び頸項部背脊部、腰部又は胸腹部等の慢性諸病に奏効す、就中肺結核には特殊の効を奏す。

(九四) 階段の灸

第七胸椎の下より第十一胸椎の下迄、脊柱を去る事各二寸にあり、十穴

皆灸す灸壯及び主治華陀狹脊の穴と同じ。

(九五) 六ツ灸

膈俞二穴、肝俞二穴、脾俞二穴、合せて六穴之を六ツ灸と云ふ。

主治 胃痙攣、胃擴張、胃癌、膈加答兒、食欲不進、消化不良其他横膈膜痙攣、喘息、肋膜炎等に効あり。灸壯各七壯乃至十五壯。

(九六) 斜差の灸

肝俞左一穴、脾俞右一穴、斜めに二穴之を斜差の灸と云ふ、一説には男子なれば、肝俞左一穴脾俞右一穴、女子なれば肝俞右一穴脾俞左一穴と云ふ、此説否なり、取るに足らず、主治内障眼又は胃弱、胃痙攣、

胃擴張、其他小兒の胃腸病等に奇効あり。療法灸七壯より十五壯。

(九七) 子宮出血治法

尾閭骨尖端より上る事五寸を本點とし本點の兩側各一寸五分に點し尙本點を上る事一寸にして上の如く三穴を求む合せて六穴なり、其他第十二胸椎の下接脊の穴を用ゐて良効あり。

主治 子宮出血を治す、療法 灸七壯乃至十五壯。

(九八) 諸瘡八穴の灸治法

頭部二穴 諸瘡頭部及び面部に發する者は、元結を以て耳尖上を横に眉毛上を經て頭の周圍を量り切斷し、其量りし元結の中央を喉頭の下に

當て、肩を経て脊に双垂し、其元結の盡たる處の脊中に假點し、次に中指二節の一寸を用ひて、右假點を去る事、左右各五分に點す、諸瘡左の頭面に生ずる者は、左一點、右にあるものは右一點を灸す。

手部二穴 諸瘡手部に生ずるものは、肩髃穴に墨點をなし、それより元結を引き中指の末に至て切斷し、其中央を喉頭の下に當て、肩を経て脊に下垂し、其元結の盡たる處の脊中に假點す、而して別に右の如く中指一寸を以て、假點の左右各五分に點す、其他同前。

背腹部二穴 大椎の上より尾閭骨尖端迄を背部とし、天突穴より陰毛際曲骨穴に至るを腹部とす、兩脇も又腹背の部に屬す、諸瘡腹背脇に生ずる者は、元結を以て兩乳頭の正中を引廻して、胸廓の周圍を量り其寸の中央を喉頭の下に當て、肩を経て脊に垂下し、其元結の盡きた

る處に假點す、其他前法と同様なり。

足脛部二穴 諸瘡足及び脛部にあるものは、患者の兩足を並べ立たしめ兩内踝を合せ付け、元結を以て兩足並ぶ處の周圍を量り、其元結の中央を喉頭の下に當て、其他は前法の如くす。  
以上八穴を諸瘡八穴の灸治法と云ふ、灸五十壯して尤も妙なり。

(九九) 九曜點

顔面手脛部 諸瘡頭面手脛にあるものは、兩眉毛上際の通りを、元結を用ひて引廻し、頭の太さを量り、其元結を以て男なれば左、女なれば右の手掌中央の横寸を取り、又中指爪甲の中央の横寸を取り、手掌の寸と爪甲の寸とを合せたるものを、頭の太さの寸の中より引去り、殘

る處の元結の寸を二折し、折目に墨點を付け、喉頭の尖りに右墨點を加へ、元結の兩端揃へて脊中に下垂し、元結の盡くる處に墨點す、又別に元結を以て上唇の赤白肉の際に隨ふて、口吻の廣さを量り、三ツ折にし、一折を切り去り、殘る處の元結の中央の折目に墨して、右の脊中墨點に加へ九曜に點す、先づ脊中の上下に點す、次に左右に點す次に左右上下に斜めに四點する時は、始の一點を合して九曜なり、灸七壯乃至十五壯。

腹背部 諸瘡腹背脇にある者は、元結を用ゐて兩乳の通りを引圍して、胸廓の太さを度り、前法の如く、掌と爪との横に合せて切り去り、殘る處の元結を二折し、折目に墨して喉頭の尖りに當て背に下垂し、盡くる處の脊中に墨點す、其他前法の如く九曜に點す、灸法同前。

足脛部 諸瘡足及び頸にあるものは、兩足を並べ内踝を合せつけて元結を以て兩足の圍の太さを量り、前法の如く掌と爪との寸を引去り、殘る處の元結を二折し折目に墨點し、喉頭の尖に加へ背に下垂し、盡る處に墨點す、其他同前九曜に點す、灸法同上。

以上九曜點は、本朝に發明するの灸法なり、試て効ある故に茲に之を記せり。

(100) 經門の六穴

元結を頸にかけ、鳩尾骨尖端に至り切り去り、其元結の中央を結喉の下に當て、脊中に下垂し、元結の盡る處に假點し、又更に上唇赤白肉の際に従ふて、口吻の廣さを量り、之を二折し、折目に墨點し脊の假點

に右墨點を當て、其上下元結の盡る處に又假點し、都合上中下三つの假點に又右の口吻の寸の墨點を當て、各左右寸の盡くる處に本點す、中の上中下の三つの假點を拭ひ去れば、即ち經門の六穴なり、灸十五壯、主治四花患門に同じ。

鍼灸經穴醫典 中編〔終〕

後編 治療法

緒言

何穴は何病に効能ありて、刺鍼點灸の分量は何程用ふべきか等は既に十四經編及び阿是穴編に於て詳述したりと雖も、并は其一穴に就て記述したるに止る。實地に臨みて疾病に應用するに當りて一穴を單用する事は殆ど稀にして多く數穴を併用するものなり。例へば胃病に對しては背椎兩側の膈俞肝俞脾俞の六穴を用ふる事あり、又腹部に於ける中脘梁門天樞等を併用する事あり、更に誘導の目的を以て下肢の三里三陰交等に施す事あり。恰も藥物療法に於て一劑を單用する事稀にして主藥副藥

調味藥等數劑を併せて調合して用ふると同様なれば、鍼灸療法に於ても藥劑療法に於けるが如く施術に先ちて何病には何穴を應用すべきかの謂ゆる處方を定めざるべからず。之れ治療編の必要なる所以なり。然れども鍼灸の應用せらるゝ範圍頗る廣きが故に全部を悉く盡し難しと雖も鍼灸術の適應症と認むるものを努めて採用し左に項を分ちて記述する事とせり。而して要穴を四肢に求めたるもの多き所以は「古人が全身を刺すを以て妙手とせず手足を刺すを以て妙手とす」と曰はれたるが如く奇効を奏する要穴は多く四肢にあることを予が多年の實驗上認めたるが故なり。尙又本編に於て鍼灸兩術の療法を併記したりと雖も开は強ち鍼灸兩術を併用せよと言ふの意にあらざれば鍼術又は灸術のみを應用するも可なり、要するに疾病の原因症候等に因て必ずしも一定せざれば術者

治療に臨みて取捨撰擇して應用せらるべし。

### 第一章 呼吸器病編

#### (一) 蓄膿症

臨泣	鍼灸二十分	四白	三分	巨膠	四分	陽白	五分
迎香	三分	印堂	五分	上星	三分	風池	七分
風門	五分	合谷	五分				

#### (二) 衄血

合大 灸七五分  
谷椎 灸七五分  
七四 壯分

身柱 七五分

風池 七七壯分

肩井 七五壯分

四

(三) 喉頭加答兒

中天 灸七七分  
都突 灸七七分  
五二 壯分

商陽 三一壯分

風府 四灸分

少衝 三三壯分

(四) 聲門筋麻痺

天突 灸七七分

華蓋 五三壯分

湧泉 五三壯分

(五) 氣管支加答兒

膏大幽 灸七五分  
肓杼門 灸七五分  
十三 壯分  
十五 壯分

膈風上 灸八五分  
俞門腕 灸八五分  
十四 壯分  
十五 壯分

肺曲梁 灸七七壯分  
俞澤門 灸七七壯分  
十三 壯分  
十五 壯分

身後 灸三三壯分  
柱谿 灸三三壯分  
十四 壯分  
十五 壯分

(六) 喘息

肝陰幽 灸七五分  
俞都門 灸七五分  
十三 壯分  
十五 壯分

脾天上 灸八五分  
俞突腕 灸八五分  
十四 壯分  
十五 壯分

中巨 灸七六壯分  
府闕 灸七六壯分  
五五 壯分

膈中 灸七八壯分  
俞腕 灸七八壯分  
二十 壯分  
四十 壯分

(七) 氣管支出血

上腕 灸八分  
灸七壯分

大椎 七四壯分

風門 七三壯分

肝俞 七三壯分

第一章 呼吸器病編  
乳根 灸五分 壯分  
大淵 灸三分 壯分

(八) 肺結核

風門 灸十五壯  
肺俞 灸十五壯  
膏肓 灸十五壯  
大椎 灸七壯  
膈俞 灸十五壯  
肝俞 灸十五壯  
脾俞 灸十五壯

(九) 肺出血

肺俞 灸十五壯  
膏肓 灸十五壯  
大淵 灸三分 壯分  
曲澤 灸三分 壯分  
上腕 灸七壯 壯分

(一〇) 肋膜炎

期門 灸四分 壯分  
章門 灸六壯分  
膽俞 灸七壯分  
支溝 灸五壯分  
丘墟 灸五分 壯分  
公孫 灸三壯分  
太衝 灸七壯分

第二章 消化器病編

(一) 咽喉加答兒

天柱 灸五分 壯分  
天膈 灸五分 壯分  
風池 灸七壯分  
肩井 灸七壯分  
廉泉 灸五分 壯分  
四瀆 灸六壯分

(二) 扁桃腺炎



然天 突 鍼灸七分  
谷 鍼灸五分

商 陽 三一分  
照 海 五三分

中庭 五三分

少衝 三二分

(三) 耳下腺炎

肘尖 灸七壯  
手三里 七壯

肩井 七壯

頰車 七壯

風池 七壯

(四) 食道狹窄

心俞 禁灸五壯  
魂門 十四壯  
解谿 三五壯

膈俞 二十四壯  
大腸俞 十六壯  
足三里 七八壯

脾俞 十四壯  
乳根 五三壯  
少商 三一壯

腎俞 十四壯  
公孫 三三壯  
臈中 五三壯

(五) 食道癌腫

中庭 鍼灸五壯

紫宮 五三壯

神道 三二分

膈俞 七四壯

(六) 慢性胃加答兒

脾俞 鍼灸四分  
中脘 十八壯

胃俞 十四壯  
陰陵泉 禁灸

輻筋 七五壯

日月 七五壯

(七) 急性胃加答兒

上脘 鍼灸八分  
天樞 八三分

中脘 十三壯  
太白 三三壯

下脘 十三壯  
商丘 三三壯

梁門 八三分  
太陵 五三壯

間使かんし 五三壯分 三里さんり 九八壯分 三陰交さんいんかう 九三壯分

(八) 胃瘻瘍

膈上かくじやう 腕くわん 灸じゆ 十三壯分 中腕ちゆうくわん 十一壯分 梁門りやうもん 十三壯分 心俞しんゆ 十三壯分

(九) 胃癌

膽俞たんゆ 七三壯分 不容ふく 七五壯分 中腕ちゆうくわん 灸じゆ 七壯分 上腕じやうくわん 七八壯分 意舍いしゃ 七五壯分 承滿しやうまん 七五壯分 大期だいき 門もん 七五壯分 肝俞かんゆ 七三壯分

(一〇) 胃擴張

巨關きゆうかん 灸じゆ 七壯分 上腕じやうくわん 七八壯分 中腕ちゆうくわん 七八壯分 脾下ひげ 腕くわん 七八壯分 胃俞いゆ 七四壯分 天樞てんしゆ 七八壯分 膈俞かくゆ 七四壯分 梁門りやうもん 七四壯分 胃俞いゆ 七四壯分

(一一) 胃痙攣

天巨てんきゆう 關かん 灸じゆ 十壯分 不ふ 容りゆう 十五壯分 大橫だいはう 十七壯分 中腕ちゆうくわん 十八壯分 關元くわんげん 十八壯分 梁門りやうもん 十八壯分

(一二) 嘔吐

膏脣 鍼灸七三分  
肺俞 七三分  
中腕 七八分  
腕骨 三五分

胃倉 七五分  
心俞 五五分  
下腕 七八分  
然谷 三三分

脾俞 七四分  
巨關 七六分  
天樞 七八分  
商丘 三三分

胃俞 七四分  
上腕 七八分  
氣海 七八分  
天府 七四分

(一三) 慢性腸加答兒

胃俞 鍼灸七四分  
天樞 七八分  
巨關 三五分  
虛下廉 七五分

脾俞 七四分  
大樞 七五分  
關元 一十五寸

大腸俞 七六分  
下腕 一十五寸  
水道 一八五分

膀胱俞 七六分  
足三里 七八分

(一四) 急性腸加答兒

膈俞 鍼灸七四分  
中腕 七八分  
豐隆 五三分

胃俞 七四分  
天樞 七八分  
公孫 五三分

脾俞 七四分  
內關 五三分  
足三里 一七五分

腎俞 七四分  
大腸俞 七八分  
關元 一十五寸

(一五) 神經性腸疝痛

關元 鍼灸七寸  
太敦 三一壯分

足三里 七八分  
陰市 五五分

丘墟 五五分  
橫骨 七五分

照海 五三分

(一六) 常習便秘

太敦 鍼灸七寸  
盲俞 七一壯分

陽陵泉 七六分  
中注 七七壯分

支溝 五三分  
石關 七七壯分

足三里 七七壯分

(一七)

盲腸炎

右五樞 鍼八分 壯分  
右腹結 七六 壯分  
大腸俞 七六 壯分

右居 膠 七七 壯分  
右章門 七六 壯分

右天樞 七八 壯分  
膀胱俞 七六 壯分

右大橫 七六 壯分  
承山 七七 壯分

(一八)

痔疾

氣海 鍼八分 壯分  
太谿 五三 壯分

孔最 七三 壯分

百會 七三 壯分

飛陽 五三 壯分

(一九)

寄生蟲

章門 鍼十二分 壯分  
中腕 七八 壯分

不容 五五 壯分  
神門 五三 壯分

巨闕 七六 壯分  
三陽絡 七三 壯分

天突 五四 壯分  
大橫 五七 壯分

(二〇)

黃疸

大椎 鍼七分 壯分  
少商 三一 壯分  
承滿 七三 壯分

肝俞 七三 壯分  
太衝 五三 壯分

痺俞 七四 壯分  
中封 三四 壯分

至陽 七四 壯分  
足三里 七八 壯分

(二一)

肝臟炎

膈俞 鍼七分 壯分  
腎俞 七四 壯分

肝俞 七四 壯分  
內關 五三 壯分

痺俞 七四 壯分  
或中 五三 壯分

胃俞 七四 壯分  
豐隆 五三 壯分